

<平成30年度>

鳥取県文化芸術事業

# 評価報告書

《本編》

鳥取県文化芸術事業評価委員会

# ～ 目 次 ～

I 総合評価	1
II 実施結果概要	
1. 実施事業一覧	4
2. 評価の体系	4
III 事業別評価	
・ 第9回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県地域振興部文化政策課）	5
・ 鳥取県ミュージカル連盟第4回合同公演・第32回鹿野ふるさとミュージカル鳥取公演 （鳥取県ミュージカル連盟、鹿野町民音楽祭実行委員会）	10
・ 第62回鳥取県美術展覧会（鳥取県地域振興部文化政策課）	14
・ 第16回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2018 西部地区事業（西部地区企画運営委員会）	17
・ 第16回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2018 中部地区事業（中部地区企画運営委員会）	23
・ 第16回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2018 東部地区事業（東部地区企画運営委員会）	29
・ 第32回県民による第九米子公演 （県民による第九公演実行委員会、第九米子公演推進委員会）	32
・ 第16回鳥取県総合芸術文化祭・とリアート2018 メイン事業 オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」（とリアートオペラ公演実行委員会）	36
・ 第40回鳥取県書道連合会展（鳥取県書道連合会展）	40
IV 専門家評価	43
・ 鳥取県文化芸術事業評価委員会 委員名簿	46
・ 鳥取県文化芸術事業評価委員会 事業別評価報告書執筆担当一覧	47
・ 鳥取県文化芸術事業評価委員会 評価委員会の開催状況	48
・ 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱	49

# I 総合評価

## 1. 本年度の評価方法

評価方法について、基本的には昨年度と同様ではあるが、評価シートの項目の見直しを行った。これまでの大項目を「目的」とし、中項目を「取組目標」に、小項目は「行動計画」と改め、目的を達成するためのより具体的な方策を、各事業の実施者に設定してもらうこととした。

評価の客観性を確保するため、各事業とも複数名の評価委員が検証することとしたほか、事業開催当日のみを対象として評価するのではなく、プレ事業やリハーサルなど、制作過程や関連事業などについてもできる限り実地検証を行い、評価の材料としたのは昨年度と同様である。

その上で、実施者が設定した取組目標や行動計画に対する自己評価、観客アンケート、実施者アンケートなどを踏まえて、実地検証した委員それぞれが評価レポートを執筆。そのレポートを、事業ごとに定めた主筆・副筆担当がまとめたものを委員会で議論、意見交換し、検討した上で各事業の評価原案を作成した。

事業実施者との認識の相違や事実関係の誤認防止のため、実施者に評価原案を提示し、意見や指摘をいただいた上で、より適正な内容や表現となるよう原案を修正し、評価報告書としてまとめた。

達成度は、昨年度と同様に「達成」3点、「概ね達成」2点、「一部達成」1点、「未達成」0点と数値化し、パーセンテージで表した。

昨年度と同じく、事業実施者、評価委員会ともに評価欄に【成果】と【課題】を明記することとした。

報告書は、本編と資料編から成る。本編は実施者の自己評価コメントと評価委員会のコメントを併記。資料編には入場者数やアンケートなどの数値的な定量目標と実績を表記。事業ごとにグラフ化もし、視認しやすい内容としたほか、各事業のチラシも掲載した。

## 2. 本年度の事業評価

評価対象とした事業は、次のとおり、合わせて9事業である。

鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業については、助成金額の大きな基本型モデル事業を評価対象とした。

- ① とりアート・メイン事業（1事業）
- ② とりアート・東、中、西部の各地区事業（3事業）
- ③ 鳥取県文化政策課主催事業（とっとり伝統芸能まつり、鳥取県美術展覧会の2事業）
- ④ 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業の基本型モデル事業（3事業）

### (1) とりアートメイン事業 オペラ「ヘンゼルとグレーテル」

設定された目標・行動計画の達成度は、事業実施者の自己評価および評価委員会による評価指標のいずれも88.9%と高い値になった。アンケートによる観客満足度も89%と高く、このうち全回答数の半数以上の59%が「とても満足」と回答していることから、質の高い事業となったことは明らかである。

若く力のあるアーティストたちが中核を担って質を担保するとともに、子どもたちも出演を通じて育成につながった。オーケストラの質の高さもステージの一体感を高めていた。字幕については鑑賞者により賛否はあろうが、オペラ初心者でも分かりやすく作品を鑑賞できる良い取組であった。

課題について、事業実施者の設定した定量目標を下回った項目が多かったことを指摘しておきたい。まずアンケートについては、満足度を知るだけではなく、事業に対する鑑賞者の意見を総合的に知るために回収率の高さが求められるが、本事業の回収率は、事業実施者の掲げた目標の20%および昨年度メイン事業の実績45.1%を大幅に下回る9.6%と1割未満にとどまっており、回収率を高める工夫が必要であった。また、入場者数も目標の800人を下回る632人であった。質の高い作品を創り上げているだけに、もったいないことであり、集客につながる戦略的な広報が必要だと考える。

### (2) とりアート各地区事業

東部、中部、西部の3地区ともアンケートによる満足度は93%以上と高く、各地区でカラーは異なるものの、それぞれ来場者のニーズをとらえた企画を実施した成果が表れている。一方、アンケート回収率は会場ごとに差がみられた。昨年度は3会場のいずれも40%以上の高い値であったが、本年度は西部で55.9%と高かったものの、東部は25.1%にとどまり、中部は39.4%と惜しくも昨年度に一步及ばなかった。西部が高かったのは小規模な会場だったため出入口が1カ所で回収しやすいということもあるだろうが、東・中部とも昨年度と同じ会場であり、回収率の維持や向上へのさらなる努力を求めたい。

東部事業は、事業実施者の自己評価と評価委員会の評価指標の双方で達成度が88.9%と、3地区で最も高かった。音楽面を中心に質の高い催しが多く、バランスのとれた構成であった。主な課題は、アンケート回収率

の向上とワークショップのチケットの取扱いの改善である。事業実施者の自己評価総括の意見の中に「評価だけにとらわれると、自由度や革新的な内容のものが排除されがちになる」とあるが、中部地区の夜間イベントでアルコール提供も伴う「Midnight Drinker Live」やA Rセルフイー、西部地区の体験型アートとパブリックビューイング、タブレット端末を使ったワークショップ等、自由で革新的な取組は委員会での評価も高い。現在の評価委員会では評論家的な評価は行わないので積極的に取り組んでほしい。

中部地区事業は、来場者数が目標 5,000 人を上回る 5,241 人、満足度は 96.8%といずれも 3 会場の中で最高だった。会場には親子連れの姿が多数見られ、家族でアートイベントを楽しむ姿が見られた。加えて、夜間はアルコール提供も伴うライブというチャレンジ性の高いイベントを開催。普段はとりアートに触れる機会の少ない大人の男性層の誘客を実現し、裾野の拡大や事業の幅を広げた点を大きく評価したい。また、昨年度指摘した点が改善されており、評価の成果が現場に活かされていた。課題としては、平成 29 年度はメイン事業として演劇公演を前面に打ち出し、質の高い主柱を立てて事業にアクセントがついていたが、本年度は誰でも参加しやすい「核」となる催事がなく、事業全体においてメリハリを欠いたのが残念である。

西部地区事業は、昨年度指摘したアンケート回収について改善され、3 会場で最も高い 55.9%の回収率であった。満足度も 96.5%と高く、「こどもと一緒にアートしよ！」というテーマのとおり、小さな子どもを連れた家族が多く、会場である米子市児童センターの特性を生かした事業が開催された。事業には、とりアートならではの質の高いワークショップも実施され、ブラッシュアップされた体験型アートの再演と、そのパブリックビューイングなどオリジナル性の高いイベントが多かった事を評価したい。達成度は 61.1%だったが、チャレンジ性の高い取組が多く、改善できる所が多数あったためであり、事業が良くなかったということではない。課題は、会場に合わせた運営ができていなかった点である。駐車場の問題や平場でのイベント運営など各所に改善が求められる。また、そのテーマと会場から、小さな子どもを対象とした催事だと受け取られたため高齢層の来場者が少なかった。幅広い層に来場してもらえる工夫が必要だろう。

### (3) 鳥取県文化政策課主催事業

「第 9 回とっとり伝統芸能まつり」では、入場者数が昨年度の 1,521 人をわずかに下回ったものの、目標の 1,500 人以上の 1,502 人を達成した。満足度は 99.2%と極めて高く、高校生ボランティアの数も目標を上回った。県外、海外団体の質の高い演目の鑑賞機会を県民に提供できるのは本事業の特色の一つである。昨年度の阿波おどりも素晴らしかったが、本年度のひろしま安芸高田神楽天神神楽団も観客の目を釘付けにしていた。大山開山 1300 年を記念した大山僧兵太鼓など県内出演団体の質も高く、総合的に良くできており円熟期を迎えた事業といえる。チンドン屋による宣伝も好評であった。今後の課題は、円熟期の後に来るマンネリ化である。さまざまな工夫でマンネリ化しないように取り組んでほしい。

「第 62 回鳥取県美術展覧会」(県展)について、今年度新たに実施した審査講評のパネル化は、審査の観点や鑑賞のポイントが鑑賞者に分かりやすく、アンケート結果からも好評で良い取組だった。学生層の出品割合が過去最高値であり、次世代育成や県内美術発展に意味のあることで評価できる。課題は、定量目標として掲げたアンケート回収率、観客満足度、入場者数の 3 目標が、いずれも目標達成にわずかに及ばなかったことである。評価委員会が指標とする会期中の 1 日当たりの入場者数も、昨年度が 229.5 人/日だったのに対し、本年度が 217.6 人/日と下回った。引き続き積極的な広報で入場者増に努めてほしい。アンケート回収率は、昨年度の 16.9%より向上したものの、目標の 20%に届かず 19.8%だった。20%以上の回収率を達成した会場もあるため、下回った会場での回収率向上の対策を講じてほしい。

### (4) 鳥取県文化団体連合会加盟団体主催事業・基本型モデル事業

第 4 回鳥取県ミュージカル連盟合同公演は、入場者数が 536 人と目標の 600 人に届かず、アンケート回収率 38.2%は、一般に傾向を知ることができるとされる 35%は上回ったものの目標の 40%には及ばなかった。一方で観客満足度は目標の 95%を上回る 95.6%と高い水準だった。主管する鹿野ふるさとミュージカルを核とし、地元を題材とした「鹿野にはかっぱやまどりくもの糸」は、市民参加型ミュージカルの芸術性や地域づくり活動としての可能性を強くアピールできた上に、県民にミュージカルの魅力を伝え、郷土に生きる誇りを育むことができたことを評価したい。課題は先に述べた定量目標達成への努力と、会場の席の問題である。最前列に座っていた観客が、オケがピットに入ると席を移動させられたり、カメラ等の録画機材が見やすい席を占有していた。鑑賞者を最優先に席を考えてほしい。

第 32 回県民による第九米子公演は、回数を重ねて鳥取県らしいスタイルが確立されている。プロのオーケストラにも合唱にも精通した指揮者の指導で、レベルの高い合唱であった。団員もうまくまとまっており、公演前に指揮者による解説があったのは鑑賞者の興味を深める取組で評価できる。アンケート回収率も目標の 30%以上となる 36.1%で、観客満足度も目標 85%を超える 93%であった。課題は、入場者数が目標と昨年実績の 1,000 人を下回る 827 人だったことである。せっかく実施した公開リハーサルにも来場がなかった点など、広報面の充実が必要だろう。また、公演が定着している反面、今後はマンネリ化しないような工夫が求められる。

第40回鳥取県書道連合会展は、節目の記念事業として取組んだ中国吉林省や台中市からの作品の出品や訪日団の実現、若き製硯師として活躍する青柳貴史氏の硯の展示などが素晴らしく、ともすればマンネリになる「毎年恒例の展覧会」に対して、工夫すれば関心を高めることができる好事例を示したことを大きく評価したい。定番となった「童謡・唱歌を書く」も鑑賞者の人気が高く、出品作は総じて質の高いもので、アンケートによる観客満足度も目標の85%を上回る88.3%であった。課題は、アンケート回収率が目標の50%に対し、わずか10.2%にとどまり、入場者数も目標に掲げた1,000人に及ばない610人だった点である。また、会場照明にも難を残した。県内活動者と訪日団による揮毫の会場や作品展示、アンケート記入場所などの明かりが暗く、照明が同展へ与える影響への配慮が足りなかった。

### 3. 今後の評価に向けて

これまで文化芸術分野に関心のない県民に、新たに参加や鑑賞してもらうためには、さまざまな工夫が求められる。少子高齢化と人口減に伴って、文化芸術分野の活動者や鑑賞者も減少してきており、心を豊かにする文化芸術の活動者の育成や新たな鑑賞者の掘り起こしは、この分野の共通の大きな課題である。一気に活動者や鑑賞者を増やせる特效薬は存在しないため、文化芸術活動に参加したり鑑賞することが、その人自身の人生を豊かにすることを県全体で粘り強くPRしていくことが必要であろう。

また、実際に来場した鑑賞者の満足度の向上および活動者の意識や技術を上げていくには、事業の質の向上と課題の抽出が必要で、アンケートの回収率向上が重要なポイントとなる。より多くの鑑賞者の声を吸い上げ、どのように事業に反映させていくか、詳細な分析とそれに基づく対応が求められる。

昨年度の総合評価の「今後の評価に向けて」において、評価委員会の評価を今後の事業の現場でさらに生かしてもらうために、評価シートの見直しについて言及した。

これは従来の評価シートにおいて、細分化された小項目を設け、事業実施者に細かな目標設定をしてもらっていたのだが、細分化されているがゆえに、異なった中項目において、同じ内容の小項目の目標が設定されることがしばしば見受けられたためである。根本的な目標を達成してもらえるように、「伝承と再発見」「創造」「伸張」「拡大」「育成」などの『大項目』を『目的』と改め、『中項目』を『取組目標』、『小項目』を『行動計画』と分かりやすくした。これによって、行動計画において、「異なった中項目（＝取組目標）で、同じ内容の小項目（＝行動計画）が設定される」ということがなくなった。

評価シートの見直しはこれで終了というわけではない、時代や環境とともに変化する社会情勢や県民鑑賞者のニーズに応える事業にしてもらうため、引き続き、現場で生かせる評価となるよう努めたい。

評価委員会は単に事業を採点するためだけにあるのではない。評価を通じてより良い事業にさせていただくための助言や改善点の指摘を行っているものであり、事業実施者と評価委員会が両輪となって事業の改善を図ることで、さらなる県内の文化振興につなげていくことができると考える。

最後に、とりアート事業全体についてだが、とりアート構想の策定から年月が経過しており、社会を取り巻く環境や鑑賞者ニーズも変化してきている。平成31年度は令和元年度となり、社会全体にも新たな機運が生まれている。メイン事業及び各地区事業に取り組むにあたって、新たな時代に合った新たな構想を策定することも検討していく必要があるだろう。

平成31年4月

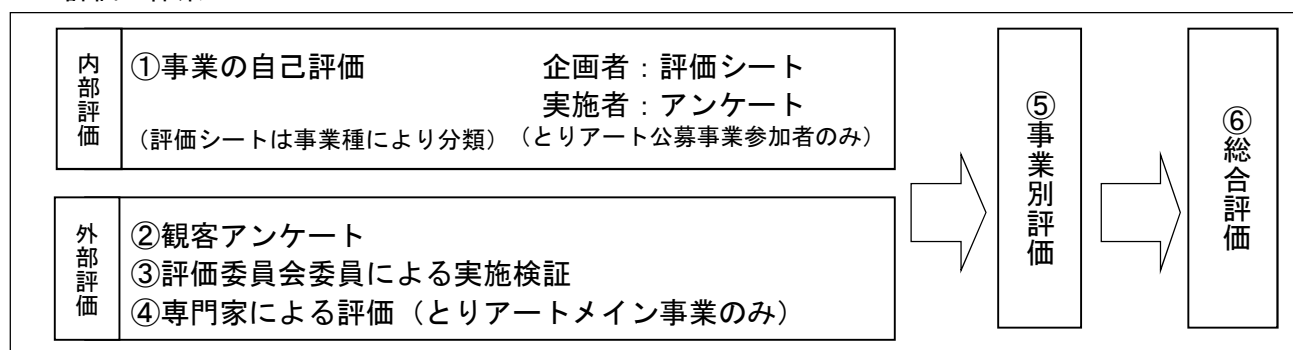
鳥取県文化芸術事業評価委員会  
会長 尾上 明

## II 実施結果概要

### 1. 実施事業一覧

番号	主体	団体名	事業名	期日 *…プレイベント	実績 (目標数)				
					入場者数 [人]	アンケート 配布枚数 [枚]	アンケート 回収枚数 [枚]	アンケート 回収率	満足度
1	鳥取県	鳥取県地域振興部文化政策課	第9回とっとり伝統芸能まつり	5月27日(日)	1,502 (1,500)	1,502 (1,500)	592 (600)	39.4% (40%)	99.2% (99.0%)
2	鳥取県文化団体連合会	鳥取県ミュージカル連盟、鹿野町民音楽祭実行委員会	鳥取県ミュージカル連盟第4回合同公演・第32回鹿野ふるさとミュージカル鳥取公演	6月10日(日)	536 (600)	536 (600)	205 (240)	38.2% (40%)	95.6% (95.0%)
3	鳥取県	鳥取県地域振興部文化政策課	第62回鳥取県美術展覧会	9月15日(土) ～11月26日(月)	9,573 (10,000)	9,573 (10,000)	1,895 (2,000)	19.8% (20%)	94.0% (97.0%)
4	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	西部地区企画運営委員会	第16回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2018西部地区事業	9月22日(土) ～9月23日(日)	1,811 (1,500)	559 (558)	313 (307)	55.9% (55.0%)	96.5% (95.0%)
5		中部地区企画運営委員会	第16回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2018中部地区事業	*9月24日(月・祝) 11月10日(土) ～11月11日(日)	5,241 (5,000)	1,598 (1,600)	630 (640)	39.4% (40%)	97.0% (90.0%)
6		東部地区企画運営委員会	第16回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2018東部地区事業	*9月8日(土) 12月8日(土) ～12月9日(日)	3,495 (3,500)	820 (820)	206 (328)	25.1% (40.0%)	93.3% (90.0%)
7	鳥取県文化団体連合会	県民による第九米子公演実行委員会、第九米子公演推進委員会	第32回県民による第九米子公演	11月25日(日)	827 (1,000)	828 (1,000)	299 (300)	36.1% (30.0%)	92.7% (85.0%)
8	鳥取県総合芸術文化祭実行委員会	とりアートオペラ公演実行委員会	第16回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2018メイン事業	12月24日(月・祝)	632 (800)	635 (800)	61 (160)	9.6% (20.0%)	88.5% (80.0%)
9	鳥取県文化団体連合会	鳥取県書道連合会	第40回鳥取県書道連合会展	3月21日(木) ～3月24日(日)	610 (1,000)	610 (1,000)	62 (500)	10.2% (50%)	91.9% (85%)

### 2. 評価の体系



### Ⅲ 事業別評価

#### 第9回とっとり伝統芸能まつり（鳥取県地域振興部文化政策課）

平成30年5月27日（日） 米子コンベンションセンター 多目的ホール

#### 文化芸術事業評価シート（県・県文連事業（舞台系））

目的	自己評価			評価委員による指標
	取組目標	行動計画	達成度及び理由	達成度及び評価委員からのコメント
伝承と再発見	地域の伝統芸能の継承・文化アイデンティティの確立	地域の歴史や伝統文化を取り上げ、各保存会が継承および発展に向けて続けている各通年行事と新たに試みようとする事業を促進するきっかけとする。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 伝統芸能まつり出演にあたり、全ての県内団体に高い士気を持って御出演いただいた。 大山開山 1300 年の節目の年であることから大山開山 1300 年祭とコラボレーションし、大山町からは「大山僧兵太鼓」、倉吉市からは「高城牛追掛節」を披露いただき、伝統芸能分野においても盛り上げた。 今年ならではの演出として淀江さんこ節において総勢 80 名の出演者に加え米子市長も出演する新たな試みを行い、会場を多に沸かせた。こういった経験が活動者たちの新たな取組への意欲へとつながっていくと思われる。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 大山開山 1300 年事業に呼応して、それにちなんだ伝統芸能で臨んだ今回の取組は、会場を沸かせた。また、開催地の市長が淀江さんこ節に出演されたのは、伝統芸能を継承していく人々に勇気と誇りを与えたと思う。 皆で盛り上げていこうという雰囲気会場をさらに沸かせた。また、子どもたちの演技も光っていた。 各地域の伝統芸能保存会の出演者が独創的な伝統を継承し、演じている姿は鑑賞者の心に響き、新しい歴史を創っていくと感じた。
		参加伝統芸能と地域のつながりを紹介して、その場所に行ってみたくと思える演出を行い、地域伝統芸能の舞台を通じて、出演者、鑑賞者が地域の魅力を再発見するきっかけとする。 /当日の観客アンケートなどによって調査。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 演技前の地域の紹介映像と結び付けての団体紹介が好評であった他、アンケートにおいても「この地域を誇りに思う」「伝統芸能の素晴らしさを再確認した」との感想をいただいた。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 紹介映像は伝統芸能の地域を視覚でとらえることが出来、演技を深く心にとらえる効果があると感じた。地元の方は、誇りを持ち、地元でない方は、行ってみたくという思いを抱く効果が十分にあった。
		鳥取県の地域に伝わる伝統芸能を多くの方々に知って興味を持っていただく。 より多くの来場者につなげ、伝統芸能ファンを広げる 目標 来場者数 1500 人	<b>達成度：達成</b> 【成果】 1,502 人に来場いただき、目標を達成した。 演目順についても観客が飽きないよう工夫し、最後まで楽しませることができた。アンケートにおいても「いろいろな演目や新しい演目も見たい」との感想をいただいております、興味関心を持っていただけたものと思う。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 目標 1500 人が達成された。 演目順はよかった。最後の淀江さんこ節で最高に盛り上がった。この余韻は来年の集客に繋がると感じた。当日は、航空祭が開催されていたが、影響を最小限に抑えた。 米子市本通りで行われた、チンドン屋を使った宣伝等含め宣伝に一定の成果があったと思

				う。
創造・ 拡大	質の高い文化芸術活動・県民への鑑賞機会の拡大	演目をコンパクトにまとめ、ハイライトシーンを中心とする質の高い内容とするよう努める。 目標：来場者アンケートより演目の質が高いと50%以上が回答	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 画一的に時間を割り振るのではなく、全ての団体に出演時間を聞き取った上でプログラムを組んだため、演目の実時間は8分～40分とかなりばらつきがあるものになったが、メリハリの効いた内容となった。 アンケートにおいては「演奏・演技等の質」が良いが46%であった。  【課題】 アンケートによると「いろいろな演目や新しい演目・団体も見たい」との感想をいただいております。掘り起こしによる伝統芸能の県内全域の質の底上げと後継者育成にも配慮しながら質の向上に努めたい。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 メリハリのあるプログラムだった。画一的な時間割を避け、団体の意向に沿ったのが効を奏した。また、鑑賞者に最後まで飽きさせない演出構成はよかった。全体として、質は高いと感じた。見ごたえがあった。  【課題】 アンケートの目標値には到達出来なかったが、後継者の育成から、円熟へと進化していくことで、目標はクリア可能だと感じた。因幡麒麟獅子舞が円熟度を増せば、これはすごい芸術になると思った。
	県外・海外の優れた芸能と県内芸能とが交流することで、継承や技術の向上などや留意点の改善につなげていく。 交流会参加者数60名目標	<b>達成度：達成</b> 【成果】 前日に交流会を実施し、ひろしま安芸高田神楽天神神楽団（広島県安芸高田市）、長春師範大学音楽学院民族音楽演奏団（中国吉林省）、淀江さんこ節保存会、因幡麒麟獅子舞の会/混合チーム、高城牛追掛節保存会、司会者、笛の音、チンドン屋、県など73名が参加。各団体の一言挨拶やチンドン屋演技などにより大変盛り上がり団体間の交流につながった。 出演団体からは「まつり当日に他団体の演目を見て大変勉強になった」との声が聞かれ、継承や技術の向上につながる意識の向上へつながった。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 前日の交流会、そして当日に県外・海外の団体の芸能に触れることは、継承や技術の向上に繋がったと思う。 交流参加人数の目標60名をクリア。この点は参加者の意識が高いことを物語っており、成功だったと考える。 県内にはないモチベーションとクオリティーの高さを体験したと思う。	
	魅力ある、県外・海外各1団体の芸能団体を招聘し、鑑賞機会の拡大と、文化芸術活動の裾野拡大を図る。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 県外からはひろしま安芸高田神楽天神神楽団、海外からは長春師範大学音楽学院民族音楽演奏団を招き、集客につながった。 イベント前から「どこの神楽団か」等の問い合わせが複数あったほか、アンケートにも、県外団体、海外団体に関する記載が多く見受けられ、印象の強さと満足度の高さを表している。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 県外・海外とも魅力満載だった。ひろしま安芸高田神楽天神神楽団は見ごたえがあった。熱演だった。長春師範大学音楽学院民族音楽演奏団の演奏は、若いエネルギーが溢れている。印象の深いものだった。裾野拡大に繋がる招聘だった。	



		<p>広く県民への周知を図るため、様々な媒体を活用した広報を実施し、効果的な広報に努める。</p> <p>チラシ・ポスター・プログラム・折り込みチラシ・チンドン屋・ラジオCM・ラジオ生放送出演・テレビCM(2社)・ホームページ展開(伝統芸能まつり・アーカイブス)</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】 米子市で各戸配布されている生活情報誌「こはく」や、文化政策課のFacebookやTwitterへの掲載などこれまでになかった媒体を活用した広報を行ったが、集客は例年並みであった。</p> <p>【課題】 アンケート結果によると、ポスター・チラシ、新聞・ミニコミ誌等から情報を入手した鑑賞者が多かったことから、ターゲットと手法の観点からより効果的な広報に努める。</p>	<p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】 各媒体を使い、目標1500人を達成できた。 チンドン屋のスーパー玄関前の宣伝はユニークで、今後も続けて欲しい手法だと感じた。若者を取り込むためには、SNSの活用は今後、大きな武器になると思う。</p>
人材育成	人材育成(指導者、後継者等)	<p>若い世代に「まつり」の進行・運営に関わっていただき、興味を持ってもらい、後継者やサポーター育成に繋げていく。高校生ボランティアにイベント運営に携わってもらう。</p> <p>目標：6校/70名</p>	<p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】 県内8つの高等学校から延べ121人の高校生ボランティアに参加していただいた。 こうした催しに参加したいという高校生がいることのみならず学校の意識の高さも窺えた。アンケートによると礼儀正しい接客が好評であり、質の良い運営へつながった。また、伝統芸能へ触れる良い機会となった。</p> <p>参加校 米子北斗高等学校、米子高等学校、米子白鳳高等学校、米子松蔭高等学校、米子西高等学校、境高等学校、境港総合技術高等学校、米子南高等学校</p>	<p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】 高校生は礼儀正しく、きびきびと仕事をこなしている印象だった。後継者やサポーター育成に繋がった。 継続が大切だと思う。 加えて、高等学校の責任者の方々の理解と協力のたまものだと感じた。</p>
		<p>子どもたちに参加してもらうことで、伝統芸能への興味喚起を図る。</p>	<p><b>達成度：一部達成</b></p> <p>【成果】 来場者の大半は60代以上であり、子ども達の来場は少ない状況である。ただ、高城牛追掛節、宇治の傘踊り、淀江さんこ節、因幡麒麟獅子舞の4団体において子どもが出演しており、出演者としては昨年より増えた。</p> <p>【課題】 出演団体の地域の小学校への働きかけに努める。</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】 子どもの来場が少なかったが、参加という点では、4団体において、参加演技している。昨年より出演人数が増加。次につながるデータである。</p> <p>【課題】 より多くの小学生の参加が望まれる。地域の小学校の理解と協力がさらに必要だと感じた。</p>
	総括		(23/27) ≙ 85.2%	(25/27) ≙ 92.6%

## 【自己評価統括】

### ○成果

- ・鑑賞者は前年並の1,500人程度であり、当該まつりが地域に定着してきている。
- ・演目の演出（順番・舞台効果等）・鑑賞者のもてなしについては受託業者のノウハウが蓄積されており、待ち時間を含め質の良い演出・運営を展開することが出来、来場者の満足度が99.2%と高かった。
- ・県外、海外招へい団体を含め全ての演目に満足との声が多く、質の高いイベントとすることが出来た。
- ・アンケートの記載では特にひろしま安芸高田神楽天神神楽団の演技を賞賛する声が多く、長春師範大学音楽学院民族音楽演奏団に関する記載も見受けられ、県外・海外から招へいた高い効果が見受けられた。特にひろしま安芸高田神楽天神神楽団の演技は観客の出入りがびたりと止まるほど、観客を惹きつける効果が見られた。その他、「中国からの招へい団体があるから見に来た」という鑑賞者の声も聞かれた。
- ・大山開山1300年の節目の年であることから大山町からは「大山僧兵太鼓」、倉吉市からは「高城牛追掛節」を披露いただき、大山開山1300年祭を伝統芸能分野においても盛り上げることが出来た。
- ・淀江さんこ節は総勢80名以上の賑やかさで、子どもの出演も多かった上に、開催地から米子市長が参加するという新たな演出も織り交ぜた演出が好評であり多くの鑑賞者に元気を与えることが出来た。
- ・司会のべるを氏、布野まちこ氏の軽妙なトークが絶妙で、テンポよく鑑賞者を飽きさせずに進めることができた。待ち時間の和楽衣箱（わらいばこ）、休憩時間のチンドン屋の演出も良く、鑑賞者の満足度向上へつながった。
- ・総合的には海外・県外団体の質の高さ、子どもの出場側としての参加など、運営面も含めて一定の成果があった。

### ○課題

- ・地域の他の行事と重なり、孫を誘ったが他の行事に行ってしまったとの声も聞かれた。来場者の満足度は高いので、いかにイベントを知ってもらい、来てもらうか工夫が必要である。
- ・このまつりを通して県内団体の質をさらに向上させることにより、県内の伝統芸能の保存・継承の機運をさらに醸成させ、伝統芸能の盛り上げを牽引していけるような団体を育成することが望まれる。
- ・広報面で、ポスター・チラシ・新聞・ミニコミ誌の効果が大きいとおもわれることから、ターゲットと手法をより洗練させ、効果的な広報に努める必要がある。

### ○その他事業に関する意見、感想

- ・情報発信について新たに県文化政策課のFacebookとTwitterを開設し、早期から受託者が作成したウェブサイトのリンクを添付する形で繰り返しシェアしたところ、「いいね!」やシェア、リツイートなどされることもあり、一定の成果が見られた。
- ・伝統芸能まつりは障がい者も楽しめるものであるため、障がい者団体への広報を行っても良いと思われる。
- ・観客に高齢者が多いことから、高齢化による難聴者もいる可能性もある。要約筆記の設置を検討しても良いと思われる。

## 【評価委員統括】

### ○成果

- ・安定して1500人の入場者があり、円熟期を迎えた。また、来場者のアンケートでは満足度99.2%の高い評価だった。伝統芸能まつりが根付いてきた感がある。出演者の質の向上も着実になされ、県民にとっては楽しみな行事の一つになっていると感じた。それと合わせ、海外・県外の優れた芸能を鑑賞する機会を得られるのは、県民にとって魅力となっている。
- ・参加団体がそれぞれの持ち味を出している。エネルギーを感じる。質の高さを感じた。
- ・ボランティアスタッフが、礼儀正しく、きちっと対応していた。見ていてすがすがしかった。
- ・前日のスーパー玄関前で、チンドン屋の演奏・高校生のパンフレット配りは、ほのぼのとした感があり、伝統芸能まつりの前哨戦だと感じた。
- ・前日の米子市本通り商店街でのチンドン屋の宣伝は、「戸板市」を狙って行われた。テレビカメラを持った取材陣が待ち構えており、事前準備の良さを感じた。まさに効果的な宣伝だった。

### ○課題

- ・休憩をはさむと言えど、午後1時30分から4時30分までと3時間は長く感じた。2時間で完結するよう検討する余地があると思われる。
- ・今回は大山開山1300年を盛り上げる為に、大山僧兵太鼓が披露され、盛り上がりにつながった。次回もこのような相乗効果を期待する。
- ・淀江さんこ節に地元市長が参加され、館内がさらに盛り上がった感がある。裾野の拡大にはこのようなパ

パフォーマンスも必要であり、次回企画においても検討されたい。

- ・前回同様、米子開催の場合は、航空祭と重なり来場者に影響したと聞いている。この点の配慮を期待したい。

#### ○その他事業に関する意見、感想

- ・知事表彰団体の表彰式が演目が始まる前に行われたが、割愛されてもよいのでは。県庁で表彰式を行い、その映像を中休憩の時に解説をいれて流してはと思った。
- ・今回のとっとり伝統芸能まつりは円熟期に入ったと感じた。円熟期の後に来るのは、マンネリという言葉。それに対する策を練って欲しい。
- ・司会のお二人は、衣装雰囲気とも伝統芸能まつりにマッチしていたが、イベント紹介の際、情報相違のところがあったので気になった。(大山夏山開きの日程の詳細)

鳥取県ミュージカル連盟第4回合同公演・第32回鹿野ふるさとミュージカル鳥取公演  
 (鳥取県ミュージカル連盟、鹿野町民音楽祭実行委員会)

平成30年6月10日(日) 鳥取市民会館

文化芸術事業評価シート(県・県文連事業(舞台系))

目的	自己評価			評価委員による指標
	取組目標	行動計画	達成度及び理由	達成度及び評価委員からのコメント
伝承と再発見	郷土の歴史や伝説等に思いを巡らし、鳥取県の魅力を再発見し、鳥取に生きる誇りを育む機会とする。	来場者アンケートにより「舞台にしてみたい鳥取県の伝説・歴史等」を募集する。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 舞台公演の場合は、とかく演技・演奏や舞台美術などの優劣に目を向けられがちであるが、市民参加型ミュージカルの原点は「ふるさと賛歌」と考えている。来場者からの応募件数は15人11件にとどまったが、今回作品の舞台裏となった郷土の伝説をプログラムやチラシ、アンケート等により紹介したことで、出演者・来場者共に郷土の魅力・生きる誇りを再確認する一助になったものと考ええる。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 東部を中心に11件の応募件数があり一定の成果はあったのではないかと。昔話は教訓を学ぶ良い機会である。  【課題】 応募のあった11件を今後どのように分析し活かしていくか。郷土の伝説等が活字になっているものがあるが視覚的に掘り下げて発信することを期待したい。
		主に地域の伝説等をテーマとする加盟団体の作品や活動内容等を広く紹介する。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 プログラム掲載並びにホワイエのパネル展示により、加盟各団体の活動概要の紹介を行った。ミュージカル連盟の存在自体についてもアピールできた。  【課題】 比較的狭いホワイエでのパネル展示は来場者の滞留時間の確保も難しい。より有効な活動紹介方法を模索することが必要。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 プログラムへの掲載、パネル展示により活動状況やミュージカル連盟の存在が、より明らかになった。  【課題】 展示内容にバラツキがあるので活動内容、時間、募集の有無など共通項目を入れたらどうか。
創造・拡大	より質の高い舞台づくりに取り組み、市民参加型ミュージカルの魅力や地域づくりへの可能性をアピールする機会とする。	総合芸術と言われるミュージカルの特徴を活かし、各般の分野で活動する多数県民の参画交流を促す。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 役者・コーラスの公募では、県東部在住者を中心に、県中部からも参画いただき、数か月から約半年間に及ぶ稽古期間を通じて高密度の交流機会が実現した。また、鳥取市響メンバーを中心としたオーケストラ、衣装着付けに詩舞団体、さらに若者の地域づくり団体による大道具転換等、各般のジャンルから総勢120人超が一体となって創り上げる舞台公演が実現した。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 鹿野を中心に長時間の稽古を通して質の高い市民参加型の舞台が創られた地域づくりに大いに貢献できた。オーケストラ・合唱とも姿がみえて素晴らしいできであった。

		来場者アンケートで、「演技・演奏等の質に満足した」とする回答率 80%以上を目標とする。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> 「演技・演奏等の質の高さに満足した」とする者は、アンケート回答者の 79% (162 人) に上ったほか、自由記述においても高評価を得られた。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> 目標にわずかに達していないが演技・演奏の質は十分であった。
人材育成	加盟各団体が保有する資機材や活動ノウハウを結集し、作品制作・上演技術向上のための機会とする。	県民のミュージカル鑑賞機会の拡大を図るため、積極的な広報活動に取り組む。	<b>達成度：概ね達成</b> <b>【成果】</b> ポスター、チラシ、SNS の外、初めての試みとして、公演 10 日前から、新聞記事体広告 (1 回)、テレビスポット CM (42 回) に取り組んだ。効果に関する詳細な評価は困難なものの、同時期からプレイガイドでのチケット購入者が増加していた点を考慮すると一定の効果があったものとする。また、仮に、直接来場に繋がらなかったとしても、当連盟及び市民参加型ミュージカルのアピールに着実に繋がったものとする。  <b>【課題】</b> アンケート結果による来場の動機を見ると、出演者等関係者の口コミによるものが大きいことが判るものの、鑑賞者の裾野を拡大するためには、口コミの限界も感じる。今後も弛まず積極的な広報活動に挑戦していく。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> 入場者数 536 人で 1・2 階はほぼ満席であることを考えると鑑賞機会の拡大は達成できたであろう。その要因は地道な広報活動の賜物であると考えてよいであろう。一定の効果と市民参加型ミュージカルのアピールを十分受け止めることができた。
		将来を担う子どもたちの出演、スタッフ等への参画を促す。	<b>達成度：一部達成</b> <b>【成果】</b> 特に小・中学校世代の参画促進に努めたが、役者を中心に極少数 (5 人) に留まった。しかし、舞台美術スタッフとして中学生の参画が得られたことは、今後の活動継続に向け意義深いものであったと考える。  <b>【課題】</b> 舞台の質向上を図る上では、仲間づくりも視野に、一定の稽古期間が必要であるとする。児童・生徒の参画しやすい活動環境づくりについて検討を深めたい。	<b>達成度：概ね達成</b> <b>【成果】</b> 小中学生の参加については長期間の練習を考慮すればやむを得ないであろう。スタッフに中学生が参加したのは今後の活動につながることを期待したい。  <b>【課題】</b> 小中学生を多数参加させることは質の向上を考えると大変だろうが出演部分を短くするなどの工夫 (活動環境づくり) が必要か。
		活動の継続、活発化に資するため、舞台道具や人材情報の共有・相互活	<b>達成度：概ね達成</b> <b>【成果】</b> 本公演を機に、ミュージカル連盟「道具部屋」として、加盟各	<b>達成度：概ね達成</b> <b>【成果】</b> ミュージカル連盟として機材等をリストアップして経費節

	用体制を構築する。	団体が保有する大小道具をリストアップし、相互活用を推進する体制づくりに着手した。  【課題】 今後、具体の登録作業を着実に進め、加盟団体間のノウハウ共有や交流、ひいては活動活発化に役立つもの創り上げていくことが重要である。	減、労力の効率化等に着手したことへの評価はできる。  【課題】 早期に登録作業を完成させ活動の充実を図ることが大切である。
総括		(16/21) ≒ 76.2%	(17/21) ≒ 81.0%

## 【自己評価統括】

### ○成果

- ・作品の制作・公演活動を通じて、市民参加型ミュージカルの芸術性や地域づくり活動としての可能性について強くアピールできたものとする。また、参加者も含む多くの県民にミュージカルの魅力を伝えるとともに、郷土に生きる誇りを少なからず育むことができたものとする。

### ○課題

- ・本公演の同日、隣接ホールで吹奏楽イベントが開催されたこともあり、周辺の駐車場事情が著しく悪化していた。また、若年層の集客にも少なからず影響があったものとする。公演日程決定における周辺スケジュール調査に課題を残した。
- ・開場前の早い時間帯に到着した来場者は、整理券を発行することでホワイエにて待ち合わせいただくよう工夫した。また、演出上の理由により急きょ最前列席を不使用としたが、来場者に対するこれらの説明・誘導が不足していたことがアンケートでも指摘されている。質の高い舞台づくりとともに、来場者への一層丁寧な対応ができるよう公演体制の充実を図る必要がある。

### ○その他事業に関する意見、感想

- ・本公演では、会場のバイアフリー面を考慮し、3階席は予備席と位置付けていた。一方、オーケストラピット等設営のため1階席のうち約130席を費やしており、今回の入場者実績はほぼ満席に近いものであった。より低廉な使用料で利用できるホール、オーケストラピットを備えた1000席規模のホールの出現を期待したい。

## 【評価委員統括】

### ○成果

- ・鹿野町民を主体とした東部地区の皆さんの市民参加ミュージカルを通し、地域の活性化に大いにつながったであろうし、ミュージカルへの身近さを感じさせ、見てみたい、やってみたいと思う人が増したような内容のある取組である。素晴らしい出来であった。
- ・整理券の発行は、混乱を防止する方策の一つとして評価できる。
- ・郷土の伝説や歴史を扱うことで内容を身近に感じることができた。

### ○課題

- ・(一番いい席であろう) 最前列の席に座っていた人がオケがピットに入ると移動させられるハプニングがあった。移動させられた人のなかには「ひどすぎるね」と漏らす人もいたので、場内整理係を配置することも必要か。
- ・どの催し物でもそうだが駐車場の確保をどうするか。(チラシ等でもっと周知することが大切ではないか。)
- ・整理券の発行は混乱防止の方策として評価できるが、公平性を考えるとポスター・チラシに記入して知らせることが大切ではないか。

### ○その他事業に関する意見、感想

- ・梨花ホールなどのような大きなキャパシティのあるところで公演すればもっと多くの人に来場してもらえるのではないか。(オケピットの関係もあろうが。)
- ・50歳以上の観客が半数あったがトイレが二階の奥にあり不便を感じた。

- ・2階中央部にTV等の録画機材が占領してしまい、一番いい席なのにもったいない。機材の後ろ数列も機材が邪魔になり座れなかった。改善方法としては1階の最後部席に機材を設置する（1階と2階の間は高い段差があり通路もあるので2階席には問題ないと思う）等の工夫がほしい。観客を最優先に考えて欲しい。
- ・アンケートにクリップ型鉛筆をつけてほしい。アンケートの記入増加につながる。
- ・監督や創りての思いを積極的に発信することで内容をさらに共有し深められるだろう。
- ・子どもたちに鑑賞機会を増やし生の舞台やオーケストラ等の本物に触れてほしい。

第62回鳥取県美術展覧会（鳥取県地域振興部文化政策課）

平成30年9月15日（土）～11月26日（月） 倉吉博物館ほか

文化芸術事業評価シート（県・県文連事業（展示系））

目的	自己評価			評価委員による指標
	取組目標	行動計画	達成度及び理由	達成度及び評価委員からのコメント
伝承と再発見	文化芸術の魅力を広める	<p>版画部門の版種をキャプションに明示することで様々な技法の存在や魅力を広める。</p> <p>【目標数値】アンケートでの取組に対する評価「良い」の回答率50%以上</p>	<p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】版種をキャプションに記載することで、様々な技法があることを伝えることができ、理解、魅力向上につなげることができた。また、アンケートの回答率は「良い」が46.8%で目標数値を若干下回ったが、「あった方が良い」を含めると76.2%であった。</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】版種をキャプションに明示することで、鑑賞者に様々な技法があることを理解してもらいその魅力を伝えられた。入場者アンケートにおいては、版種を表示する取組について「良い」とするものは46.8%と概ね目標を達成したものと考えられる。</p> <p>【課題】昨年の第61回県展の自己評価において、キャプションの文字サイズが小さいとの声を受けてキャプションのレイアウト等を検討したいとされていたが62回県展のアンケートにおいてもキャプションの文字が小さいとの声が見受けられる。</p>
		<p>書道部門において、引き続き卷子、帖も出展可能とし、より幅広くに書道作品の魅力を広める。</p>	<p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】今年度も帖の作品が奨励賞を受賞するなど、継続して幅広いレベルの高い作品が出品されている。出品数の多い縦作品、横作品に加え、卷子や帖の作品が展示されることで来場者は様々な作品を鑑賞でき、書道作品の魅力向上につながっていると考える。</p>	<p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】書道部門の出品件数の大多数を占める額装作品に加えて卷子、帖作品が加わることによって表現の幅が広がり書道の魅力が深まった。</p>
創造・拡大	<p>質の高い文化芸術活動への参加促進</p>	<p>県展をより身近に感じていただくため、キャッチフレーズを設け、チラシ・ポスター・開催要項に明示することで出品数の拡大を図る。</p> <p>【目標数値】出品数 620点(第61回 618点)</p>	<p><b>達成度：一部達成</b></p> <p>【成果】県展のキャッチフレーズである「新しい鳥取の個性、集まる！」を明示したチラシ・ポスター・開催要項を作成し、「県展」であることを一目でわかるようにしたが、出品数591点と目標値を若干下回った。</p> <p>【課題】学生の出品が43点と、前年度の28点より大きく増加しており、引き続き高等学校、大学等へ出品の働きかけを行うことで、より一層の出品拡大につなげていきたい。</p> <p>【学生の出品数】H28:31点→H29:28点→H30:43点</p>	<p><b>達成度：一部達成</b></p> <p>【成果】第61回県展の評価を踏まえて出品件数減少の対応策として県内高等学校等への出品の働きかけを行ったことにより学生層の出品が増加したことは評価できる。この取組を継続して全体の出展数増加につなげることを期待したい。</p> <p>【課題】県展の出品件数は年々減少してきており、第62回県展では591点と600点を割り込んだ。県が掲げた行動計画を継続することのみでは今後出品件数の増加は見込めず、出展件数減少の要因を分析したうえで抜本的な対策が必要と考える。</p>



		<p>部門ごとの審査の観点・審査講評及び県展賞作品講評をパネル化し提示することにより、鑑賞者の受賞作品に対する理解を深める。</p> <p>【目標数値】 アンケートでの取組に対する評価「わかった」の回答率 50%以上</p>	<p><b>達成度：達成</b> 【成果】 審査の観点・審査講評等のパネル化に対するアンケート評価は、「とてもよく分かった」、「よく分かった」の回答率が、81.7%と高く、作品に対する理解向上につながっている。</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 部門ごとの審査講評や県展賞受賞作品講評をパネル化し掲出することで、アンケートにおいても「分かった」とするものが目標を大幅に上回り鑑賞者の支持を得た。このことで、鑑賞者の作品への理解がさらに深まったものと評価できる。</p> <p>【課題】 行動計画で企画された「審査の観点」については掲出がなされておらず、次回に期待したい。</p>
人材育成	将来を担う子どもたちへの鑑賞機会の提供	<p>県内高等学校等に出向き、芸術担当教員を通じ、鑑賞を推奨いただくことで若年層の取り込みを図る。</p> <p>【目標数値】 20代以下の鑑賞者 10%（第61回 8.2%）</p>	<p><b>達成度：一部達成</b> 【成果】 学校の授業、部活で展示会に会場するなど学校単位での鑑賞があったが、若年層の来場は 8.4%と目標数値 10%を下回った。</p> <p>【課題】 一層、学校単位の来場を促すとともに、学生からの出品を増やすことで、若年層の来場者数の増加を図りたい。</p>	<p><b>達成度：一部達成</b> 【成果】 授業や部活の一環で観賞する学校があったことは、一定の評価ができる。</p> <p>【課題】 20歳代以下の鑑賞者数の割合は目標に届かなかった。県展の入場者数は第61回から500人以上減少した中、20歳代以下のそれも減少しているものと推察されることから更なる取組を期待したい。</p>
		<p>SNS等も活用した情報発信を行い、若年層等へのPRを強化する。</p> <p>【目標値】 アンケートでの情報入手方法として「SNS」の回答率 20%以上</p>	<p><b>達成度：未達成</b> 【成果】 作品募集、各会場での展示会開催にあわせて、県文化政策課のSNS（フェイスブック、ツイッター）により複数回発信したが、アンケートでのSNSを情報源とした回答率は 1.1%と目標値を大きく下回った。</p> <p>【課題】 今後もSNS発信を行うとともに影響力のある県広報課等のアカウントから発信することにより、PRの強化を図りたい。</p>	<p><b>達成度：未達成</b> 【成果】 従来の広報手法に加えて新規に取組を行ったのは評価できる。</p> <p>【課題】 入場者へのアンケートによる県展情報の入手方法では、「SNS」によるとするものは目標を大きく下回った。目標設定にやや難があったとの声もあり、要因を分析し、次回の回答率向上を期待したい。</p>
総括			(11/18) ÷ 61.1%	(9/18) ÷ 50.0%

## 【自己評価統括】

### ○成果

- ・入場者数は9,573人となり、目標値の10,000人に達しなかったが、直近10年間で昨年度に次いで二番目に多い来場者数となった。
- ・出品数は591点となり、目標値の620点に達しなかったものの、一般応募者に占める学生の出品割合は9.0%と直近10年間で最高値となった（次点は平成22年度の7.7%）。引き続き高等学校、大学等へ出品の働きかけを行うことで、出品数の増加につなげていきたい。
- ・アンケート回収率は19.8%と目標値20%に僅かに達しなかったが、昨年度の16.9%を3ポイント以上上回った。積極的なアンケート配布・協力依頼による取組が寄与したと考える。

### ○課題

- ・直近10年間の応募点数は、平成22年度の733点をピークに年々減少傾向にある。応募者の高齢化や固定化が主な原因と考えられるため、若年層など新たな出品者の掘り起こしを検討していきたい。
- ・顧客満足度は94%と高水準となっているものの、定量目標の97%を達成しなかった。アンケートでは、キャプションの改善（文字拡大等）を希望する意見が多いことから、見直しを図っていきたい。
- ・新しい感性を持った学生等の出品を増やすことでさらなる魅力向上に努めていきたい。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・アンケートでは、観光の途中で立ち寄ったなどの意見も多くあるため、観光客が立ち寄る施設（案内所等）へチラシ、ポスターを配布するとともに、他のイベントと連携した周知などにより、情報発信の強化に努めていきたい。

## 【評価委員統括】

### ○成果

- ・今年度の新たな取組として実施した審査講評のパネル掲出は、審査のポイントや受賞作品の評価された点が鑑賞者にわかりやすく、アンケート結果からも好評であったと思われる。
- ・学生層の出品が増加したことは、次世代育成や県内芸術の発展にとって意味あることで評価できる。

### ○課題

- ・定量目標として掲げた①アンケート回収率、②顧客満足度、③入場者数の3目標は、何れも目標に達しなかった。
- ・アンケート回収率は昨年実績を上回ったものの顧客満足度及び入場者数は昨年に及ばなかった。
- ・何より憂慮されるのは、出品数の減少傾向に歯止めがかからないことである。出品者の高齢化と固定化傾向を踏まえると、抜本的な対策が望まれる。
- ・アンケートの回収率においては、会場により顕著な差が見られるほか、入場者数においても一日当たりの入場者数は第60回、第61回と比較して下回っているなど注視すべき課題がある。
- ・行動計画として版画種別の版種のキャプション掲出、書道部門の出展規格拡大など毎回設定されているものについて、他部門への拡大などを含めて更なる取組みを期待したい。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・版画部門の版種をキャプションに記載する取組は、様々な技法のあることを伝え鑑賞者の理解と作品の魅力向上に役立っていると県展鑑賞者から支持されている。この取組を洋画や工芸など他の部門に広められると県展のさらなる魅力向上につながると思われる。
- ・アンケートにおいてもキャプションの改善を希望する声が多くあり見直しを検討願いたい。
- ・書道部門については、一点一点をゆったりと展示するのが理想であるが、展示スペースが限られて残念である。
- ・県展をより身近に感じてもらい、入場された方に県展への参加意識をより実感してもらうために鑑賞者の投票による「賞」を創設することを検討しては如何か。

第16回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2018西部地区事業（西部地区企画運営委員会）

平成30年9月22日（土）～9月23日（日） 米子市児童文化センターとその周辺

文化芸術事業評価シート（とりアート事業（総合芸術））

目的	自己評価			評価委員による指標
	取組目標	行動計画	達成度及び理由	達成度及び評価委員からのコメント
裾野の 拡大	県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供	<p>①「いつものまちで文化する」というコンセプトを今年も継続し、普段の日常から文化芸術に触れる機会が増えるきっかけづくりとなるような事業であることを委員会内で意識付けした上で、「こどもと一緒にアートしよう！」をテーマとする。それにより、名称のみに捕らわれず、子どもから高齢の方まで幅広い世代の参加を促す。具体的数値目標としては、各世代（10代以下・10代・・・60代・70代以上）の参加者数を100名以上とする。 （◆補足：中長期的にはこども世代が10年後、文化芸術の活動に携わっていくことを目指す。）</p>	<p><b>達成度：一部達成</b> 【成果】 米子市児童文化センターを会場としたことで、これまで参加率の低かった若年層（20歳未満から40歳代／ただし、20歳代は例年と同じように低い）の参加数が増え、イベント参加以外の目的で来場された方にも、文化芸術に触れる機会を提供することができた。 （年齢別参加者） 10代未満・・・861人 10代・・・135人 20代・・・47人 30代・・・266人 40代・・・353人 50代・・・81人 60代・・・29人 70代・・・5人</p> <p>【課題】 若年層の参加数は増加したが、高齢層の参加数は減少した。ワークショップの対象年齢を時間によってある程度絞るなど各年代の参加者数増加に向けて対策が必要である。特に20歳代は、即戦力として、かつ、今後活動を牽引していく重要な世代でもあるため、この世代の関心事（ニーズ）を把握しつつ、既存のコンテンツと、未来のコンテンツ（ニーズ）とが持続的に取り組めるプログラムを組み立てていくことが必要である。</p>	<p><b>達成度：一部達成</b> 【成果】 今年の米子市児童文化センターで開催された、「とりアート2018西部地区事業」には、親子等の参加が多く見受けられた。子どもの無限な発想、想像豊かなアート作品の過程を観るに文化芸術の原点を感じられたと思われる。</p> <p>【課題】 今年の年齢別参加者の中で20代の声を実施者は参考にすべきと思われる。この世代の社会環境（現代の情報が日々飛び交う）の変化によるものなのか否か、そして50代～70代の来場者のアート文化のニーズを考えてプログラムに組み立てていくことが出来るか否かが課題に思う。</p>
		<p>②「米子市児童文化センター」を会場とすることは、米子市民がセンターの開館以来、多世代に渡ってこどもの頃から馴染みのある施設であることを長所に、テーマを具現化するには適した施設である。収容人数はホ</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 「わらべうた」をベースとした、ライブ・スタンプラリーは概ね好評で、施設の特性を活かして、実施者と来場者が距離感が近く、一体的な体験をすることができた。 施設の普段の活動との共有が出来、テーマにあるように子どもと一緒にぐっと凝縮したアートに触れる楽しい時間を提</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 「わらべうた」によるライブ・スタンプラリーは施設の特性を活かされ実施者と来場者の距離感が近くて一体的に体験が出来たように思われる。子どもが文化に触れる施設で実施者による多様なアート文化を体験し、加えて子どもの独創的な感性でアートに触れる時間を提供出来たと思う。</p>

		<p>ール系施設に比べれば劣るが、集客数を増やすことを主目的とせず、実施者と来場者がより身近に接することができることを活かして、実演の幅が広がっていくことを目指す。</p>	<p>供できた。</p> <p>【課題】 ステージを設けずに、平場でのパフォーマンス実施は、実施者と鑑賞者をより近くし、演じられるパフォーマンスを身近に体験できるように試みたが、会場の特性とその意図を実施者に伝えきれず、従来のステージパフォーマンスをただ平場へ下ろしたパフォーマンスがいくつかあったことは、テーマのイメージ伝達不足という課題である。また、結果、会場内の動線や音環境に不具合を生じたことは、当施設を使用する際の今後の重要検討課題である。</p>	<p>【課題】 ステージを設けないパフォーマンスを演ずることの、目的と、イメージが伝達不足であったこと、そして会場内の動線、音環境等について課題と思われる。</p>
頂点の伸張	県内の文化芸術や事業の質の向上、県民ニーズの把握	<p>①地域における文化芸術の事業の質の向上のため、地域外（特に国内広く）で活躍するアーティストを招聘する事で、これまでの経験則に伴った高質なプログラムを間近で、運営者・実施者・参加者が経験できる機会を提供する。なお、地元で活躍する実践者のプログラムも並行して行うことで、協働する機会や、体験する機会をその場で得ることができるため、研鑽の機会となることを目指す。招聘アーティストの選定については、次項「人材育成-行動計画②」に記述。</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】 「森まもりの森の中」では、地元アーティストと招聘アーティストがコラボレーションし、子どもたちに新感覚のアート体験を提供できた。 「ピッケのつくるえほん」ワークショップでは、大人向けのワークショップも開催し、参加者数は少なかったが、大人から子どもまで、ワークショップを通して考える機会を提供できた。</p> <p>【課題】 招聘アーティストと参加団体が協働する機会をセッティングすることが出来なかった。せっかくの機会をより有効に活用でき、より多くの方が参加できるように取組と仕組を考える必要がある。</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】 地元アーティストと国内で活躍している招聘アーティストは、文化芸術に対してのクオリティの高いアーティストであり新感覚のアート「ピッケのつくるえほん」においては子どもたちの自由な発想も織り込み、個性あるえほんの冊子をつくりあげ、来場者はアートに対しての思考の変化を体験出来たと思う。</p> <p>【課題】 地域の文化芸術の事業の資質の向上のため地域外アーティストと参加団体と共同する機会を得ることの期待と研鑽を機に今後の取組と仕組を考え、多くの来場者が参加できるプログラムも検討する必要があるように思われる。</p>
		<p>②従来のステージ型プログラムから、実践者と鑑賞者がより近いところ関わることのできる平場でのパフォーマンスプログラムを実施する。 (◆補足：観るだ</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】 平場でのパフォーマンスが有効であることが確認できた。特に今回は、エントランス部分に接する内外の場所でエリアを設定したことで、目的を持たない来場者へも鑑賞の機会を提供し、パフォーマンスをより近くで楽しむ子どもたちの姿も</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】 今年のとリアート会場は、米子市児童文化センターで開催されたことは行動計画に沿うプログラムであったと思われる。平場で実施者と鑑賞者がより近くで体験することができ、また子どもたちが想像ゆたかなアート作品に挑戦する姿が見</p>

		<p>けではなく、体験する機会を提供することによって、鑑賞者が何を求めているのかを見つけてもらう機会となることを期待する。実施者には、より自らのパフォーマンスに鑑賞者が巻き込まれていくような工夫を促す。なお、この方法には、近年各地で行われているアート事業において見られる、ジャンルに縛られない、実施者・参加者の諸般の環境に捕らわれない、ボーダレス・アートを視野に入れ、今後のとりアートに求められるものも把握していくことも目的とする。)</p>	<p>見られたことは、大変貴重な成果である。これも、実践者の鑑賞者に楽しんでもらうプログラム実施など工夫があつてのことであり、今後の事業の参考とする。</p> <p>【課題】 テーマの伝達が不足し、理解をされないまま実施されたパフォーマンスもあり、平場で、どこからでもアクセスできる場所であるが故に、動線の問題、音環境の問題などが生じた。実施プログラムの選定と組立について、場所の特性を熟考し、何の(誰の)ためのプログラムかを意識した上で、実施プログラムの選定と実施者との連携に取り組む必要がある。</p>	<p>られ、実施者のパフォーマンスを鑑賞者に楽しんでもらうに、大変有意義な取組のプログラムである様に思われ、今後の活動に期待する。</p> <p>【課題】 テーマの伝達に係る問題、アクセス出来る場所であるがゆえの動線の問題、そして音環境等の問題、生じていたことに、実施プログラムの選定、組み立て、場所の特性を熟考し実施者との連携等にも配慮しつつ取り組む必要があると思う。</p>
<p>人材育成</p>	<p>活動者(指導者・後継者・担い手)の育成、鑑賞者の育成、育成した人材を活用する場の提供</p>	<p>①過去(2015年に初公演/2016年はアウトリーチ事業で日野町の保育所および高齢者施設で実施)に公演した体験型アート「森まもりの森の中」を再演することで、実演者にプログラムをアップデートする機会と場を提供する。 (◆補足:プログラムの再演が、体験者の繰り返し体験へとつながり、アップデートされた内容が、体験者である子どもたちの成長とともに、「アートを自ら実践する」・「鑑賞の中での気づき」を育成できる場となることを期待する。)</p>	<p><b>達成度: 概ね達成</b> 【成果】 新たな要素を組み込み体験型アート「森まもりの森の中」の再演が出来た。 子どもだけの参加としたことは、子ども自身の意思と判断でアートを体験でき、子どもの中での年長者と年少者との助け合いが見られたことは、良かった。また、この様子をパブリックビューイングという形で、会場外にて保護者、来場者に向けて、様子を伝えることが出来たのは、今後においても大変貴重な試みであった。 事前申込制とし、実施までに定員数に達することが出来たことは、以前からの取組への評価と考える事ができると思われることと、アップデートへの期待からと捉え、良質なプログラムの再演のニーズが示されたことと認識した。</p> <p>【課題】 期待を持たれたプログラムであることは、申込の状況・体験者の感想から実証されたことと意識することから、将来的には地</p>	<p><b>達成度: 概ね達成</b> 【成果】 体験型のアート「森まもりの森の中」のプログラムが再演され、アップデートされた内容により子ども自身の意思による判断でアートを実践し、そして年長者と年少者の、間に「鑑賞の中での気づき」の場であり、育成の場としての、取組が出来たと思われる。</p> <p>【課題】 このプログラムに期待もよせられ、体験者の感想からも実証されたと思われる。今後、今回の「森まもりの森の中」ような団体の育成・発掘し、そしてアート芸術文化に対して質の向上に取り組むことが、地区事業からメイン事業へつなげることへの大きな課題だと思う。</p>

		区事業からメイン事業へと繋げていきたい。今後、今回の「森まもりの森の中」ような活動者（団体）の育成・発掘を行っていく必要がある。	
	②国内で活躍する地域外のアーティストを招聘し、高質なプログラムの上演と、豊かな経験からなる指導の様子を間近で経験し協働することで、地域の実践者を育成する。 （◆補足：なお、招聘アーティストの、「坂野知恵」さんにおいては、過去に鳥取県でアート作品の制作活動を行い（暮らしとアートとコノサキ計画）、今回のテーマにあった高質のプログラムが実践できる担保があること、一方、国内で活躍されている「朝倉民枝」さんにあっては、イベントを実施し、事前に実施会場の諸情報や参加者の雰囲気把握してもらう事前準備をおこなえることを確認の上選定している。）	<b>達成度：概ね達成</b> <b>【成果】</b> 「わらべうた」「えほんづくりワークショップ」共に、大変好評を得ることが出来、とりアートだからこそ体験できるものに特化した高度なプログラムを県民が間近に触れる機会を提供できた。また、それをしっかりと意識して体験できたという来場者の感想は、今後の実践者の育成に繋がっていくと期待できる。 <b>【課題】</b> 地元実践者と招聘アーティストとの協働にまで及ぶことが出来なかったことが大きな課題である。予定されたプログラムとともに、もう一歩踏み込んだ、協働（コラボレーション）する仕組みを提供し、地域の実践者を育成することが委員会がとりアートを行う上での重要な取組課題であると考え。	<b>達成度：概ね達成</b> <b>【成果】</b> 「わらべうた」そして「えほんづくりワークショップ」、いずれの招聘アーティストも独創的でクオリティの高さに特化されたプログラムを意識し、来場者が体験できたことこそ今後、実践者の育成に繋がっていくことと思われる。 <b>【課題】</b> 地元の実践者と招聘アーティストとの協働が出来なかったことは課題。コラボレーションする仕組みを提供し、地域の実践者を育成することが委員会がとりアートを行う上で重要な取組課題であると思われる。
総括		(11/18) ≒ 61.1%	(11/18) ≒ 61.1%

## 【自己評価統括】

### ○成果

- ・「米子市児童文化センター」の施設特性を活かして、子どもを中心に、様々なアートに触れる機会を提供できた。特に、ステージを設けず、平場においてのパフォーマンスの実施が、実施者と来場者をより近い環境で、パフォーマンスに惹き付け、体験することが出来たと思われる。さらに、パフォーマンスの鑑賞を目的としていない来場者にも、鑑賞の機会を提供することが出来、何らかの関心を引き出せているのではないかと感じた。あわせて、実施者は、小規模な見せ方、客の引き込み方などの工夫や発見を感じてもらえた。
- ・「わらべうた日和（くらやみ、スタンプラリーを含む）」「森まもりの森の中」「ピッケのつくろえほんワークショップ」などについては、大変関心が寄せられたこと、また、事前申込制への反応（おおよそすべてが予約満員）から見ても、クオリティと関心の高さをうかがい知れる。アーティストの招聘、過去の実施プログラムの再演は、来場者にとって、クオリティの高いアートに触れる有効な方法であると考え。今後とも、選定には十分に協議を行い、来場者へクオリティの高いプログラムを提供していきたい。
- ・委員全体がコンセプトをきちんと理解し、それに向かって色々な企画を考え、自主企画の質の向上につなげた。

### ○課題

- ・「米子市児童文化センター」の事前確認が不十分であったため、動線の混乱、音による不具合など、当日になってからの課題が確認され、その対応において若干のトラブルが発生してしまった。とりアートの開催に加えて、日ごろからセンターを利用する子どもたちが遊ぶスペースを確保し混在したことは、とりアートを知らない、センター来訪を目的としてきていた来場者にも、アートに触れる機会を提供できたという成果があった反面、混雑した環境に、各室への動線配慮が不足し、動線の不明瞭さが浮き彫りになった。特に、プラネタリウムへの音の流入は想定外で、当日になってのプログラム実施場所の変更をお願いすることになった。今回、西部地区のテーマを「こどもと一緒にアートする！」とし、「わらべうた日和」や「大道芸人 YUKARI」のような、より身近な範囲で一緒に楽しみ体験するという、音響などに頼らない、息づかいの感じる事が出来そうな一体感でのプログラム実施と、鑑賞者の体験を目指したかったが、それを実施者（特に公募企画実施者）に十分に伝えることが出来なかった。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・施設の駐車可能台数も限られているので、参加者（来場者）への有料駐車場利用の補助も検討したい。
- ・時間や人員が限られている中で効率よく、広報の仕方、スケジュール管理、情報の共有など早い段階で委員と事務局が連携し、進めていく必要がある。
- ・地区委員の参加が、例年に比べて少なかった。
- ・今回、米子市・境港市内小学校の全児童にチラシ配布を行ったが、大山町など鳥取県西部地区全体へと拡大しても良いのではないかと感じた。
- ・天気に左右されず安全の確保ができるならば、屋外の活用方法も考える余地があるかもしれない。
- ・テーマを絞ったターゲットで発信できたが、その分、イベントの規模が小さくなり、実施者からは集客不足という意見が多く見られた。
- ・長期に渡り実施している地区事業の「公募企画事業」について、当初からその位置付け及び役割が、今日において変化してきているように感じている。現在県内では、様々な文化関連のイベントが増え、来場者の意識も大変高くなってきており、テーマに沿わない、質を担保できていない企画に対する反応は大変厳しい意見が出てきている。西部地区企画運営委員会が企画立案し実施する自主企画事業においては、地域の特性を反映させ、質の担保も行うことでアンケート等からも手応えを感じている。来場者にとっては、自主企画事業も公募企画事業もどちらも境目はなく、一つのイベントの中での企画と捉えられるため、近年、イベント自体の質向上が大変難しいと感じている。出演団体によっては、普段の活動の発表の場の延長として捉えられている場合もあり、その都度改善を求め調整するが結果に結びつかない場合が多いのが実情である。裾野の拡大を主目的とした「地区事業」において、公募企画事業の在り方と必要性を深く検討し、県民に明示しなければならないと考える。
- ・とりアートは今年で16回目を迎え、「とりアート構想」に基づき各事業を実施している。しかし、構想作成時から時間が経過し、課題改善も含めた見直しが必要と思われる。県民のニーズの捉え方、アートを取り巻く社会情勢、広い範囲（全国的）での傾向などを鑑みると、とりアートの在り方は確実に変わっていくべきであり、県民にとっての「文化芸術」とは何なのかを改めて考えていかなければならない時期に来ていると思われる。

## 【評価委員統括】

### ○成果

- ・会場を米子市児童文化センターで開催したことにより、施設の特徴が活かされ、体験者が実践者に近いところで多様なアートに触れ合う機会が出来たと思われる。
- ・「こどもと一緒にアートしよ！」というコンセプトのとおり、親子がアート作品を自ら作る楽しみと、クオリティの高いパフォーマンスや想像性豊かな表現を体験でき、実践者の育成と鑑賞者の育成の場となったと思う。
- ・アート文化芸術を年代を超えた多くの鑑賞者が体験すること、パフォーマンスを鑑賞者に幅広く伝えることは、裾野の拡大につながると思う。子ども（人）が持っている感性でアートの楽しさを体験され、鑑賞者としてまた実践者としても得られたこの経験が生かされることに期待をしたいと思います。

### ○課題

- ・米子市児童文化センターは駐車場が少なく、その他の駐車場への案内・誘導等もなかった。
- ・「こどもと一緒にアートしよ！」というテーマは理解できるが、高齢者の来場に繋がる努力が求められる。
- ・会場では動線の不備などが見られ、平場でやるというコンセプトを、もっとしっかり練り込む必要があった。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・目的に“裾野の拡大”があるが、「こどもと一緒にアートしよ！」というテーマでは、親子のみを対象とした催しに受け止められる可能性が高くなるのではないか。



第16回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2018中部地区事業（中部地区企画運営委員会）

平成30年11月10日（土）～11月11日（日） 倉吉未来中心

文化芸術事業評価シート（とりアート事業（総合芸術））

目的	自己評価			評価委員による指標
	取組目標	行動計画	達成度及び理由	達成度及び評価委員からのコメント
裾野の拡大	<p>県民誰もが気軽に文化芸術に触れる機会の提供</p>	<p>誰でも気軽に鑑賞できるオープンスペースでの企画を中心に、各会場での一般の方や障がい者の方のステージ発表や展示、ワークショップなど幅広い文化芸術分野の企画を実施することで、県民誰もが参加しやすく、気軽に楽しめるイベントを実施する。また、クイズラリー、フードコート、物づくりワークショップなどを実施し、より長く楽しく催しを満喫できるよう工夫する。</p> <p>・満足度目標90%以上（昨年96.5%）</p>	<p><b>達成度：達成</b> 【成果】 アトリウムを中心に、会場内各所で、バラエティ豊かに様々なイベントを開催したことで、多くの来場者が気軽に鑑賞したり、ワークショップ参加できるよう構成することができた。 クイズラリーも多くの参加者があり、フードコートもお昼を挟んでのイベント参加を手伝って、長時間滞在してイベントを楽しむ来場者の姿が見られた。来場者満足度も96.8%と、昨年同様に高い満足度を得ることができた。 また、今年度は大ホールホワイエを会場に、夜間地元のお酒を飲みながら地元活動者のライブを鑑賞するという大人を対象とした企画「Midnight Drinker Live」を開催し、昼間とは違った雰囲気の中で演奏を楽しんでいただくとともに、会場の新たな利用方法を開拓することもできた。今後も催事と会場の効果的な利用方法を模索していきたい。</p>	<p><b>達成度：達成</b> 【成果】 家族連れや高齢者など幅広い世代の観客で賑わっており、それぞれが興味を持てる多彩なジャンルのステージ演目を開催。各種のワークショップやクイズラリーもあり、気軽に参加できる内容だった。 夜のライブもチャレンジ性の高い取り組みで、これまで「中部とりアート」に触れる機会が少なかった大人の男性層にもアピールするものであり、裾野の拡大につながり、事業の幅も広がった。 掲げた目標については達成だが、実施者アンケートにもあるように、ステージの音量が大きすぎてワークショップ時の話の邪魔になる点は配慮が必要。</p>
		<p>チラシやポスターのほか、ウェブやSNS等を活用して、積極的かつ魅力的な情報発信に努め、より多くの来場を目指す。</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 ポスターやチラシなどの作成に早期から取り組み、周知を図ることができ、アンケートでもチラシ・ポスターを見られた方の割合が高くなっていることが分かる。また、新聞の折込チラシも効果的で、目標来場者数5,000人を越えることができた。</p> <p>【課題】 ウェブやSNSでの発信については、委員個人の発信は例年より多かったものの、委員会としての発信はほとんどできなかったのは課題である。開催が近づくほど情報を発信していきたいものだが、準備にも追われ情報発信まで手が回らないのが現状である。</p> <p>【実績】HP更新：11回（前半に</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 催事を知ったきっかけは、アンケートによるとチラシ・ポスター、新聞折込みチラシが多く、来場者も定量目標の5,000人を上回る成果となった。</p> <p>【課題】 アンケートによると、知ったきっかけにHPやFacebookを挙げた回答は全体の約4%にとどまり、チラシ・ポスターの7分の1しかなかった。WebやSNSでの発信は大変な作業であり、片手間のできるようなものではない。担当を決めて積極的な情報発信に努めてほしい。委員、出演団体、出店者などがハッシュタグをつけて全体として発信するような仕組みも考</p>

			集中) facebook 発信：委員会 4 回（投稿 3、シェア 1）、委員個人 30 回程度	えてはどうか。 また、中部地区事業初日が、近くの倉吉博物館で開かれた県展倉吉会場の開催初日と同日になったが、いずれの催しでも相互事業のPRがみられなかった。両方とも文化に関心のある人が来場する催事で絶好の宣伝機会であったにもかかわらず相互の広報連携がとれていなかったのは残念である。
頂点の伸張	良質な作品の提供	プレイベントとして、東京国際映画祭をはじめ国内外の映画祭にて上映・受賞している映画「かぞくへ」の無料上映会を実施し、質の高い映画公演を提供する。併せて、それに出演する地域出身俳優の活躍を紹介することで、地域の文化芸術に対する気運を高める一助とする。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 9月にプレイベントとして実施した映画「かぞくへ」無料上映会は、約300名の来場者に各種映画祭で受賞・上映される上質な映画を提供することができた。地元湯梨浜町出身である出演俳優と監督によるステージ挨拶や握手会を設けることで、来場者（地元住民）に映画や俳優等について身近に感じていただくことができ、アンケートは未実施であるが、来場者の表情から高い満足度や文化芸術に対する気運の高まりを感じる公演となり、プレイベントとしてとりアート中部を存分にPRできた。  【課題】 11月の本事業では、ほとんどが地元の一般の方のステージ、展示等で、高いアート性のあるものは昨年と比べても少なかったことは否めない。元来、地区事業は裾野の拡大が第一との考えはあるものの、本事業の中に県民が企画・制作する質の高い企画を取り入れていくことも考えていきたい。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 目標に掲げた通り、プレイベントで既存の映画を上映し、来場者にとりアート中部地区事業が開かれることをPRした。  【課題】 会場では監督の次回作の製作資金を募るコーナーも設けられていたが、とりアートのために作られた映画ではない既存の作品をプレイベントとして上映することが、「とりアートの頂点の伸張」といえるのかどうか。 掲げた目標に対しては「概ね達成」としたが、当項目は、本編である地区事業において良質な作品を提供するための工夫や成果を問うものである。目標設定について検討してほしい。むしろ、良質で裾野の拡大にも挑戦した「Midnight Drinker Live」を掲げたほうが良かったのではないかと。
	県内の文化芸術や事業の質の向上	過去のアンケート結果や事業評価、反省点等を収集、分析し、地域の鑑賞者や参加者のニーズを把握することで、質の向上に努める。 （雨天時のフードコート、絵画コンクール作品の展示場所、オープニング企画の開始時刻、2階	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 昨年の反省点を踏まえ会場レイアウトや時間組み等を工夫し、事業の質向上に努めた。 ・昨年の反省を受けて、オープニングと他企画の開始時刻が重ならないよう配慮した。 ・フードコートの調理は屋外でないと不可であるが、販売は屋内外どちらでもできるようにし、できるだけ天候に左右されないよう配慮した。 ・2階の集客として、絵画コンクール作品を2階に展示する、パ	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 昨年度課題として指摘していた、オープニングステージと小ホールイベントの開始時刻が同じだった点や絵画コンクールの展示場所などが改善されていた。 昨年に比べて2階の催事が増えており改善努力がみられた。パルーンを求めて2階に上がってくる家族連れ姿もあるなど、2階への誘客の工夫もあった。フードコートは東・西部より充実しており、他の地区に先駆

		<p>の集客など)</p>	<p>ルーン企画で来場者を2階に誘導するなどの対策を講じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画コンクールの作品展示場所については、昨年は小ホール前に並べたが、作品が奥まってしまう、小ホール企画の開場待ちができない、窓辺に壁ができて暗くなるなどの反省が挙げたことを受け、今年は2階へ展示した。また、パネル両面に展示することで作品を一箇所にまとめ鑑賞しやすくするとともに、イベント全体の展示パネル数の確保にも繋がった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <p>昨年の課題を克服する一定の成果はあったものの、新たな課題もあった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画コンクールの展示場所について、受賞作品は、2日目に表彰式でステージに上げるために1階に配置したが、来場者からすると探しづらく、また入賞も選外も同一に扱うべきという意見も委員より挙げた。</li> <li>・飲食スペースについては可能な限りの確保はしたが、全体的に見るとまだゆっくり飲食を楽しむスペースが足りず、またフードコートが目立たなかったという反省も挙げた。フードコートにどれくらいの重きをおくのかを委員会内で議論する必要もあるが、展示、ワークショップ、フードコートの出店数、飲食スペースなど全体のイベント規模やバランスを改めて考えなくてはならない。</li> </ul>	<p>け、より強化することで中部事業の新たな魅力づくりにもつながると思う。検討してほしい。</p> <p>【課題】</p> <p>絵画コンクールの展示場所は、入賞も選外も同じ場所に展示するのがよいと感じた。昨年度に比べると2階の催事は増えたが、まだ1階のにぎやかさに比べて、寂しい状況であることは否めない。2階催事のさらなる充実と誘客に期待する。また、1階でもリハーサル室などへの動線も目立つように工夫してほしい。</p>
<p>人材育成</p>	<p>活動者（指導者・後継者・担い手）の育成、及び鑑賞者の育成</p>	<p>ステージイベントでは、地元で活動する青少年のステージや、恒例となってきた「絵画コンクール」「ステップアート」を実施し、幼児・児童・生徒の文化芸術に関する関心・意欲を高めるとともに、保護者や関係先（園・学校等）へのとりアート事業の普及と理解・参加を促す。</p>	<p><b>達成度：概ね達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>絵画コンクールでは、応募数が321点と過去最多であり、連続して応募する園児・児童がみられることから、コンクールが定着しつつあるといえる。</p> <p>ステップアート（階段アート）は新規に、今年度で閉校が決まっている北溟中学校に依頼し、とりアート事業の理解を広げることができたとともに、その作品をアーティスト的な形で来場者に鑑賞していただくことができた。ステップアート前で写真撮影される方も多く、とりアート中部の風物詩的存在になってきている。ステージでは、倉吉西高音楽部に</p>	<p><b>達成度：達成</b></p> <p>【成果】</p> <p>児童、生徒のイベント出演や生徒によるステップアートなど、小中高生がかかわる催事が多く、それに伴って保護者の来場にもつながっていた。今後も保護者や関係先（園・学校等）へのとりアート事業の普及と理解・参加の促進に努めてもらいたい。</p> <p>子どものころから気軽にアートイベントに参加する機会を提供できていた。合わせて、子どもの保護者の来場にもつながり、アートに関心の低い層の新たな来場者増にもつながった。この来場者が「継続的なア</p>

		<p>よるオープニングから始まり、小学生バンド3つ、倉吉ジュニアオーケストラ、小中学生によるダンスステージ、合唱団 MIRAI、湯梨浜学園による合唱など、青少年の活躍する場を多く作ることができ、その関係者や家族へのとりアート事業の理解、普及にも繋がった。</p> <p>【課題】          青少年合唱フェスティバルは、土曜授業の影響や学校の多忙、依頼・準備の時期などの関係で、出演団体が減少傾向にあることは課題である。来年度以降の実施形態を含め、今後検討していきたい。          各ワークショップには、物づくり系のワークショップが数店舗出ているが、委員会独自にもアート系ワークショップで、子どもたちのアート感覚を高めるような企画を検討、実施していく必要がある。</p>	<p>ートの鑑賞者」として定着するような催事に取り組んでほしい。</p>
育成した人材を活用する場の提供	中部地区企画運営委員会が運営・育成している「中部少年少女合唱団 MIRAI」に、様々な発表の場をつくる。	<p><b>達成度：達成</b>  <b>【成果】</b>          中部少年少女合唱団 MIRAI は、小学1年生～中学1年生まで過去最多の25名が集まり、演奏レベルも上達してきている。とりアート中部地区事業では、「ふるさとの今・昔・MIRAI」と題し、アトリウムと小ホールの2ステージをこなし、とりアート中部の看板合唱団として多くの来場者に歌声を披露することができた。          また、とりアート中部地区事業のほか、合唱フェスティバル、あいサポートアートとっとり祭、倉吉天女音楽祭、楽曲CD音源収録、とりアートメイン事業への有志出演（12月）、他の合唱団演奏会の賛助出演（3月）など、出演依頼を受け、多くのイベント等に出演し、貴重なステージを多く体験することができた。</p>	<p><b>達成度：達成</b>  <b>【成果】</b>          少年少女合唱団のない中部地区で、子どもたちにMIRAIという合唱グループを作り、発表の場があることは大きな意義がある。中部地区事業の大きな成果で、継続的な取り組みを評価したい。          将来的には、とりアートのみで支えるのではなく、独立して活動できるような団体に育ててほしい。</p>
総括		(14/18) ≒ 77.8%	(15/18) ≒ 83.3%

## 【自己評価統括】

### ○成果

- ・オープンな展示・鑑賞や、ワークショップなど参加しやすい催し、子どもの喜ぶクイズラリーなど、県民の誰もが参加しやすく、気軽に文化芸術に触れられるイベントを開催することができた。イベントを楽しみながら過ごしている雰囲気は本当にありがたく、今後も継続していきたい。
- ・中部地区らしい子どもから高齢者に向けた企画や、健常者も障がい者も参加するステージ発表などを実施でき、テーマの「次世代育成」に対する成果を感じる。
- ・館内全体の新たな使用方法を模索することによって、大ホールホワイエでの「Midnight Drinker Live」やアートギャラリーでの「巨大折り紙展示&ワークショップ」など、今までにないイベント企画ができた。また、館内装飾と設置を一つの作品として地域活動者に依頼し、会場内の温かく楽しい雰囲気を作ることができたことも成果である。
- ・2日間のイベント開催が、アートマネージャーや委員、事務局による企画力、運営力により、つつがなく終えることができた。また、今年は、昨年に比べ前日準備や片付けに出演団体からの参加が多く、県民で作る芸術文化祭という認識を出演団体と共有できてきたと感じる。今後もさらに出演団体との意思疎通を大事にしていきたい。

### ○課題

- ・2階の会場への動線として、バルーン企画での誘導や絵画コンクール展示場所など工夫したが、やはり2階が客薄となってしまったり、フードコートについても場所がわかりにくいという来場者からの意見もあった。また倉吉未来中心全館を利用して、多彩なイベントを開催し大変賑やかな雰囲気にはなったものの、全体的に統一感がない印象もあった。イベント規模や会場レイアウトの工夫、料金や内容を記載したボード・プログラム、司会者による各ブースの実況中継、ステージでの出店 PR コーナーなど、より効果的な会場使用・プログラムを考えていきたい。
- ・小ホール公演について、今年度は公募企画を含め3企画（前日・1日目倉吉タイムトンネル、2日目打吹童子ばやし、青少年合唱フェスティバル）を行ったが、計画段階では予算や規模、スタッフ必要人員等が不明確で、直前になって要望対応に苦慮するものもあった。今後は、1日目リハーサル、2日日本番というように、実施企画を限定し、企画立案・スタッフ・予算・スケジュール・内容など、委員会がより関わっていく形にシフトしていきたい。
- ・ワークショップについては、有料のものと無料のものを同じ部屋に配置したことで、有料のものが高価な印象になってしまい参加数が伸びなかったものもあり、今後は配慮が必要である。
- ・地区事業ということで裾野の拡大を第一に、地域の活動者の活躍の場を中心に企画はしているが、「総合芸術文化祭」として、鳥取県に関連するレベルの高いステージや展示、アート性のあるワークショップ等も委員会で計画していきたい。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・まだまだとりアートを知らないという方もいらっしゃるの、一人でも多くの方に知っていただけるよう効果的なPRを引き続き考えていきたい。
- ・来場者と共有できるような中部地区委員会独自の目玉企画を作っていきたい。

## 【評価委員統括】

### ○成果

- ・参加しやすい催しや鑑賞しやすいイベントが多く、多くの家族連れらで終日にぎわい、活気があった。
- ・中部地区の主要テーマである「次世代育成」を視野に、児童・生徒などのイベントも多く、子どものころから気軽にアートに触れる（参加・鑑賞）機会を提供できていた。
- ・大ホールのホワイエを会場にした夜間イベント「Midnight Drinker Live」は新たな試みで面白いチャレンジだった。お酒の提供に伴い、床面が汚れないように養生もされており、安心して楽しめるようになっていた。子どもを主なターゲットにしたものばかりでなく大人を対象にしたライブで、総合的に幅広い層に会場してもらえることに成功した。
- ・昨年度指摘した会場の課題点の多くが改善されていた。
- ・アンケート回収率がごくわずか目標に届かなかったが、全体的に定量目標を達成しており適切な目標設定だった。中でも96.8%の満足度は素晴らしい成果である。

### ○課題

- ・多種多彩なイベント開催に取り組んだためか、さまざまなイベントでにぎやかであった反面、統一性が感じられなかった。また質の高いアートの提供という点でも、特に秀逸なものを挙げられないのが残念であ

る。昨年度の演劇公演のような、質の高い「中部地区のメイン事業」を設けることを検討してほしい。

- ・ワークショップについては、ARセルフイーはオリジナル性が高かったものの、全体的には他のイベントでも行われていたり実施できるものが多かったが、「とりアートならではの」というアート性の高いものも多数実施していくことが必要となる。金額も東・西部事業のワークショップに比べて高く感じられた。「実際にやってみたいが高くて参加できない」との声を多く聞いた。1000円以上のものもあり、複数の子供がいる場合大きな金額になる。価格を抑えたものも設定するなどの対策を望みたい。せっかくの芸術に触れる機会が金銭的な問題で奪われるのは寂しい。
- ・広報面では、中部地区事業初日が、近くの倉吉博物館で開かれた県展倉吉会場の開催初日と同日になったが、いずれの催しでも相互の事業のPRがみられなかった。両方とも文化芸術に関心のある人が来場する催事で、絶好の宣伝機会であったにもかかわらず相互の広報連携がとれていなかった。ただし、これは中部地区委員会のみの問題ではなく、両事業の主催者である県（文化政策課）が双方の実務現場にあらかじめアドバイスした方が良かっただろう。

#### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・演目によってはステージイベントの音量が大きく、ワークショップ実施の上で妨げになっていた点は配慮が必要。
- ・「かぞくへ」の上映が、プレイメントとしての位置づけであれば、その実施効果を把握し県民に目に見える形で説明できるよう、アンケートを行うほうが良かったと考える。
- ・鑑賞者や活動者の育成については、幼児から小中学生に加えて高校生や短大生などの参加をさらに促し、子どもや若者に、よりレベルの高いものを鑑賞してもらうことによって、文化芸術への意欲を高めてもらいたい。
- ・東、中、西部のとりアートの連携や他のアート系の県内団体などとの連携等を模索してはどうだろうか。
- ・フードコートについては、東部や西部に比べても中部は充実しており、昼をまたいだ長期滞在者の増加という点でも重要な存在といえる。アンケートの中にもよかった企画としてフードコートを挙げる意見も多い。全国各地で実施されている芸術祭などでも、食を文化として重要視する傾向が強く、地元の食材や、特別なメニューなどを取り入れるなど、さらに力を入れることで中部地区事業の新たな魅力にもなりうるものと考えられる。ぜひ強化を検討してほしい。

第16回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2018 東部地区事業（東部地区企画運営委員会）

平成30年12月8日（土）～12月9日（日） とりぎん文化会館

文化芸術事業評価シート（とりアート事業（総合芸術））

目的	自己評価			評価委員による指標
	取組目標	行動計画	達成度及び理由	達成度及び評価委員からのコメント
裾野の拡大	アートを通じてあ らゆる人が交流す る事業	自由に行き来でき る空間（とりぎん文 化会館フリースペ ース⇔展示室）を利 用して、誰もが気軽 にアートに触れる 機会を提供する。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 フリースペースにステージ を設置して気軽にパフォー マンスを鑑賞できる環境を整え、さ らにワークショップ・展示会場 の展示室入口を全面開放する ことで、ステージとWS・展示 エリアを隔たりがなく、一体的 な空間を作り出した。また、2 階を使用することなく1階に全 ての企画を集約したことで、誰 もが参加しやすい環境となっ た。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 ワークショップを行いながら、 ステージからの歌声が聞こえ てきたり、ステージを鑑賞しな がらワークショップの様子を 遠目に確認できたりと、お互い の様子がわかる開放的なスペ ースで、気軽に行き来できる心 地よい空間であった。2階を使 用しなかったことについては、 わかりやすくなった半面、少し もったいない気もした。
		多様なジャンルの 文化芸術の鑑賞・体 験の機会を提供す ることで、アート を通じて、性別・年 齢・障がいの有無・ 国籍に関わらずあ らゆる人たちが交 流できる事業を目 指す。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 様々なジャンルのパフォー マンス、ワークショップを実施 し、文化芸術の鑑賞・体験の機 会を提供した。障がい者団体、 施設と連携することで、幅広い 交流が図れた。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 障がい者の方々が、ステージで 伸び伸び表現をされている様 子に心を動かされた。 ワークショップでは、点描画や ドローイングなど他の会場 では体験したことのないジャン ルの体験ができた。
頂点の伸張	地域の一流のア ートに触れる機 会の提供	県内外で活躍する アーティスト、専門 家が携わることで、 人材の育成を図る とともに、質の高い 企画を実施する。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 鳥取出身で県外で活躍するア ーティストや、県内で活動する アーティストを多く取り込み、 良質な企画を実施できた。特に フリースペース「鳥取の星ステ ージ」や小ホール企画「鳥取産 創曲」、展示室の「水本俊也× 大判和紙」写真展では、プロレ ベルの上質な文化芸術を提供 できた。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 小ホール企画「鳥取産創曲」を 鑑賞したが、県内にこれだけの 才能を持った音楽家の方々が いることに感心した。とりア ートが彼らをもっと広くアピ ールする役も担えるとよいと思 う。 またアートマネジメント講座 は、人材育成という点でも興味 深い企画であったが、実施時間 が遅く参加人数が少なかった ためもったいなかった。
		委員会と実施者が 一堂に会する場を 設け、両者が事業コ ンセプト、テーマを 共有することで、事 業に関わる全員で プロセスを共有し、 ともに作り上げる 事業を目指す	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 実行委員と企画実施者が一堂 に会する「全体会議」を通じ、 コンセプトやテーマを伝え、今 年度の東部地区事業について 理解を得ながら事業を実施す ることができた。加えて今年度 は、東部・中部・西部地区委員	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 実施者と委員会が「全体会議」 を行うことで、お互いに理解を 深めることができたことは評 価できる。  【課題】 全ての人々が共通の理解を得る

		もに質の向上につなげる。	会の合同企画も実施し、実行委員会内でも新たな取り組みを実施した。  【課題】 1回の会議ではなかなか伝わらない部分や、委員会の想いを把握しきれないこともある。広報についても更なる協力が不可欠だと感じており、もう一步踏み込んだ関わりを検討する必要がある。	のは簡単ではないと思うが、根気よく頑張ってもらいたい。
人材育成	地域文化の担い手（若年層・実施者・鑑賞者）の育成	事業を通じ、地域の文化を支える人々の育成を目指す。特に、これからの鳥取の文化芸術を担う若年層（子ども・学生）の出演・参加・来場を促し、地域文化の裾野の拡大を目指す。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 書道パフォーマンス、郷土芸能、ダンス、折り紙WS、食ブースの来店など複数の企画で多くの若年層（学生・子ども）の参画があり、その育成の一端が担えた。引き続き若者の参画を推進していく。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 多くの若年層が日ごろの成果を発表する場として、また多様な文化芸術へ目を向ける場としての意味合いは大きい。若者の参画については、どちらかといえばステージへの参加者が多いように感じたので、展示やワークショップへも多くの若者の参加があるとよい。若者の参画についてはさらに力を入れてほしい。
	事業支援者の拡大と連携の充実	県主催のイベント、企業や地域のアーティストなどと連携することで、地域のアートを支える支援者の拡大を目指します。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 とっとり県民の日イベントでは、県・イオンと、また県内在住のイラストレーターをチラシ・パンフレットのデザインに採用するなど、様々な連携を展開した。  【課題】 企業との連携はイオンでのイベントのみであり、今後発展させていく必要がある。また、県民（東部）への支援を求めるためには、やはり集客を増加させなければならない。そのためにも様々な機会、方法で広く周知していかなければならない。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 支援者の拡大は事業のPRにもつながるものでもあり評価できる。  【課題】 イオンでのイベントはこれまでも行っていたかと思うので、拡大という点では十分とは言えないかもしれない。企業との連携には、さらに力を入れてほしい。多くの企業やアーティストが支援したいと思えるようなイベントになってほしい。
総括			(16/18) ≒ 88.9%	(16/18) ≒ 88.9%

## 【自己評価統括】

### ○成果

- ・素晴らしいアーティストに集まっていたいて素晴らしいパフォーマンスを提供していただき、十分にたくさんの方々に提示することができた。
- ・ステージ・展示・ワークショップに関しては顔ぶれを変化させたことで質の担保には繋がったのではないかと感じる。障がい者アートについては、今回は会場内をコンパクトにまとまりよく彩ってくれた。小ホールコンサートのレベルも高く、こういった内容の企画を継続していければよいと思う。



- ・これまで積極的に文化芸術に取り組んでいない人にとっても、気軽に参加できる環境や企画であった。
- ・「鳥取の星ステージ」や「ジュニアオーケストラ」「鳥取産創曲」等、中心にレベルの高いものが提供できた。また、メインステージでは、様々な団体のバラエティー豊かな発表が見られた。
- ・12月の寒い中、比較的多くのお客さんが滞在時間も長く、しっかりととりアートを楽しんでくれたように思う。
- ・今回の東部地区事業は、委員の設定目標に対する意識の高さも功を奏し、非常にバランスのとれた形での実施ができたように思う。特に音楽面での質の高さは鳥取の誇れる内容だったのではないだろうか。

#### ○課題

- ・宣伝告知についても参加事業者にもっと協力をいただけるような形を作りたい。そのためには委員会と事業者との意思疎通、対話が必要である。
- ・今回ワークショップをチケット制の参加としたが、周知が十分でなく、来場者・実施者に迷惑を掛けた。今後もチケット制を継続するのであれば、十分な検討が必要だと感じた。
- ・フードコートの出店数はもう少しあってもよかったのかもしれない。食べ物も充実した方が、来場者も多いのではないだろうか。
- ・車椅子通行できるくらいのゆとりがほしい。
- ・この度の事業は自己評価としては高いものとなったが、今回で終わりではない。次年度にどのような切り口でどのようなものを地域に提供できるかを常に考えながら事業を展開していかなければならない。

#### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・梨花ホールを上手に活用したい。札幌市に新たに開館した「ヒタルホール」では、客席を閉鎖してステージ全面を使ってジャズのライブハウスを作り上げたらしい。飲食飲酒あり。鳥取でも全く実現可能。
- ・評価だけにとらわれると、自由度や革新的な内容のものが排除されがちになる。これは「アート」とってはマイナス。このイベントの本質とバラエティーに富んだ発想を忘れてはならないと思う。
- ・単なる一過性のイベントで終わることなく、とりアートへの参画を機に出演者・団体同士の交流・連携が広がるような取組が必要と感じた。

### 【評価委員統括】

#### ○成果

- ・鳥取県内の文化・芸術にかかわる人たちの日ごろの成果を発表する場として、若者の人材育成の場として意義は大きい。また来場者にとっても普段はなかなか出会えない文化や芸術に触れることで、心を豊かにすることができる。
- ・アマチュアのみでなくプロフェッショナルによるステージや展示は、多くの方が質の高い芸術に触れる機会にもなる。鳥取産創曲では地域における高い文化芸術に触れることのできる良い企画であったと思う。美術の面でもこのような企画を期待したい。

#### ○課題

- ・アンケート回収率が3地区で最も低く、目標を下回っている。定量目標達成への努力を望む。
- ・毎年挙げられているが、集客については引き続き課題の一つであろう。イベント自体は年々改善を加えながらよくなってきていると思うので、より多くの人々に来場して体験していただきたい。
- ・ワークショップに実際に参加してみて、いくつかのアンケートにもあったようにチケットの取り扱いが分かりにくかった。チケットのわずらわしさが原因で参加を取りやめるようなこともあったようで、このようなことで文化芸術に触れる機会を失ってしまうことは残念である。

#### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・個人やグループで活動している中高大生が自由に表現できる「場」としての可能生も視野に入れてみては？
- ・提案されていた梨花ホールの有効活用については、ぜひ実際に取組んでいただきたい。若者の出演や参加を目的とした企画に力を入れることは大事なことであり今後も継続していただきたいが、同時に対象を大人に特化したような空間の演出もあってよいと思う。うまく棲み分けができれば、イベントに厚みが出てくると思う。長年やっていると成熟していく一方で、少なからずマンネリ化の心配も出てくるので、新しいことにもどんどん挑戦していただきたい。
- ・他の会場でも感じたことだが、フードコートの充実滞滞在時間を長くするという面のほかに、食を通した文化に触れる機会にもなりうるものであり、ぜひ力を入れてほしい。

第32回県民による第九米子公演（県民による第九公演実行委員会、第九米子公演推進委員会）

平成30年11月25日（日） 米子市公会堂 大ホール

文化芸術事業評価シート（県・県文連事業（舞台系））

目的	自己評価			評価委員による指標
	取組目標	行動計画	達成度及び理由	達成度及び評価委員からのコメント
伝承と再発見	鳥取の文化アイデンティティの確立	ベートーヴェン作曲の交響曲第九番を昭和60年から30年以上にわたって公演しており、既に県民に広く定着しているこの事業をさらに継続、発展させる。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> 各方面からのご援助により成功裏に公演を終えることができた。 出演者も練習を重ねて、質の高い演奏をすることができ、鳥取県民第九の伝統を受け継いだという誇りをおのおのが持つことができた。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> 30年以上にわたる鳥取県民による第九が継続されていることは素晴らしい。 県の文化アイデンティティが確立されていた。
		出演者を公募し、広く県民が文化芸術活動に携わる機会を提供する。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> オーケストラ・合唱とも団員を公募した。特に合唱は、各ホール、公民館に募集要項を配架したほか、米子市報にも募集記事を掲載した。 これまでの経験者に呼びかけ、口コミでの募集にも努めた。 その結果、初めての方を含む団員の応募につながった。 <応募者の状況> ①合唱団 ・新応募者 9名 （20代1名、30代0名、40代3名、50代2名、60代2名、70代1名） ・経験者 70名 （20代1名、30代2名、40代5名、50代16名、60代29名、70代13名、80代3名、89歳1名） ②オーケストラ ・新応募者 6名 （10代1名、20代5名） ・経験者（エキストラ含む）60名 （10代0名、20代5名、30代9名、40代21名、50代18名、60代5名、70代2名）	<b>達成度：概ね達成</b> <b>【成果】</b> オーケストラ、合唱団員とも地元の有志がほとんどで郷土の連帯感といった意識の下、結団力が生まれる。公募したことも良い。  <b>【課題】</b> 参加者の定着化がみられる反面、口コミも含め、もっと気軽に誰でも参加できる、という雰囲気作りをしてほしい。
創造・拡大	質の高い文化芸術活動	プロとの連携・協働により事業の質の向上に努める。プロの指導、またプロ奏者とともに演奏することにより県内奏者の技術を向上させる。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> 指揮者松岡氏の丁寧かつ妥協しない指導は団員の信頼を得て、各々が高度な音楽表現を目指すことへのモチベーションが高まった。 オーケストラは、プロアマ共に	<b>達成度：概ね達成</b> <b>【成果】</b> 指揮者松岡氏は長年県民第九米子公演の指揮者として信頼も厚く、合唱の指導に関しても一流である。プロの支援により質の高い演奏になっていると思われる。

			練習することにより、プロ奏者の奏法や音楽の作り方をアマチュア奏者が学び、技術・音楽性の向上につながっている。 合唱は、発声指導にも定評ある松岡氏の指導を受けることで美しい発声法の修得、意識の持ち方を学び、それが良い演奏につながった。	【課題】 オーケストラに関しては、ほぼアマチュア集団なので、もう少し県内出身の若手プロに参加してもらえば今後の演奏技術の向上につながるのではないだろうか。
		障がい者や高齢者、乳幼児のいらっしゃる方でも気軽に鑑賞できる環境作り（託児対応、バリアフリー等）に努める。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 前回に引き続き、無料託児サービスを実施しました。事故なく実施することができ、安心した。 障がい者や高齢者の方に対する配慮については、事前にスタッフの中で何度も打ち合わせをした。最大限温かい対応ができたと思うが、施設的な限界（エレベーターがないなど）もあり、ご不便をおかけした部分もあったのではないかと思う。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 スタッフの方が車いすの観客に対してきちんと気配りされていた。大きな混乱はなかった。
		アンケート問 1、観客満足度について、「とても満足」「満足」の合計を 85%以上とした。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 93%という高率で良い評価をいただくことができた。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 目標をクリアした。
人材育成	将来を担う子どもたちへの鑑賞機会の提供	高校生以下の当日入場料金を前売と同額とし、当日でも気軽に入場できるようにする。	<b>達成度：一部達成</b> 【成果】 高校生以下の当日券が前回の 1 枚から 4 枚に増えた。  【課題】 増えたとはいえ、たくさんの来場者を得たわけではない。 若い世代にどうやって鑑賞してもらい活動を継承していくかという課題は残っている。	<b>達成度：一部達成</b> 【成果】 学生の当日券がわずかでも増えたのは良かった。  【課題】 検証が必要。今後は各中学校の吹奏楽部などにも呼びかけたり、高校生以下の入場料を無料にするなど、もっと有効な手段を考えていただきたい。
		公演前日のリハーサルを高校生向けに公開します。	<b>達成度：一部達成</b> 【成果】 各高校に案内を出し、公演前日に公開リハーサルを行った。  【課題】 残念ながら来場者がなかった。時期や時間帯についてなど、周知の方法を再検討する必要がある。	<b>達成度：未達成</b> 【課題】 公演前日の公開リハーサルというアイデアはとても良いが、様々な角度からの再検討を望む。
総括			(17/21) ≙ 81.0%	(14/21) ≙ 66.7%

## 【自己評価統括】

### ○成果

- ・何と言っても、これまで積み上げてきた「鳥取県における第九公演」の伝統を守り、引き継ぐことができたことが最大の成果で、この目標が達成できたことに一番安堵している。各方面からの御支援のたまものであることに改めて感謝する。
- ・当日はたくさんのお客様に来場していただき、生のオーケストラ・合唱の響きを楽しんでいただくことができた。
- ・本番では、練習の成果を発揮して、かつ非常に集中した演奏ができた。終演後、指揮者及びソリストからは「皆の音を聞き合えていて、素晴らしい演奏だった」とのコメントをいただき、出演者からは「何度演奏しても難しい曲だが、チャレンジしてよかった（オケ）」「練習回数も多く大変だったが、いい演奏だったと言ってもらえてよかった（合唱）」などの感想があった。県内の音楽文化のすそ野拡大にいくらかでも寄与できたのではないだろうか。
- ・このところ毎回行っているが、演奏前に指揮者が話す曲の解説も好評で、お客様からは「場面を思い浮かべながら聞けてよかった」「より深く理解できた」との声が聞かれる。これらの成果を誇りに思い、今後の取り組みにつなげていきたいと思う。

### ○課題

- ・新たな団員は応募してくれたが、特に合唱は男性団員及び20代以下の団員がもっと欲しい。そのために公開リハーサルを企画したが、来場者がなかったのは非常に残念。当日券の料金設定も前売同額としたが、思うような成果が上がらなかった。若い世代の参加及び鑑賞を促すことが今後の課題。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・米子公演は3年に1回だが、日程の決定、指揮者及びソリストとの交渉から始まり、公演会場の予約、練習計画の検討、団員公募の構想など、1年半ほど前から準備を進めた。それゆえ、無事に事業が終了できたことの安心感と達成感はとても大きい。
- ・通算32回目の第九公演だったが、さらに継続できるよう、今後とも御支援いただきたい。

## 【評価委員統括】

### ○成果

- ・各都道府県で実施されているその土地に根付いたスタイルでの“第九公演”は鳥取県内でも歴史を重ね、第32回というロングランで鳥取県らしいスタイルを確立してきていると思う。
- ・プロのオーケストラにも合唱にも精通した指揮者の指導の下、特に合唱に関して年々レベルが上がってきているように感じる。
- ・団員が上手くまとまっていた。和やかな雰囲気があり、頼もしかった。
- ・公演前に指揮者による解説が聞けたのは興味深かった。

### ○課題

- ・回数が増え定着していることは喜ばしいが、反面マンネリ化していないか。更なる発展をさせるのはどうしたらよいか。全県の第九実行委員会で検討してほしい。
- ・毎回参加されている団員には安定感もみられ、充実したオケ・合唱は理解できるが、若い次世代の参加者がなくエネルギーを感じない。どう解消するのか検討してほしい。
- ・合唱に関しては、男性パートの増員を希望する。
- ・入場者数が前回に比べ170人余り減少している。事業者の総括の中にはないが、その原因・要因は何か、分析をお願いしたい（目標設定には無理はないと思うが）。当日券の売れ行きが悪かったのか、前売り券の販売に今一つ伸びがなかったのか、宣伝等を含め検証が必要。
- ・公開リハーサルに来場者がなかった点も検証が必要。
- ・バリアフリーなど施設的な限界は始めからわかっている。今後会場の変更の検討がなされるのか、会場のキャパを含め検討をお願いしたい。
- ・前回の第九米子公演同様、開場前に長蛇の列ができていた。再度解消策の工夫を望む。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・次世代のエネルギーが必要ではないか。米子市を中心にユースオケや少年少女合唱団があるので1部のステージに参加できるものを考えてみてはどうか。中には第九に参加できる奏者もいるのではないか。出場の場を増やし音楽の素晴らしさを感じてもらいたい。
- ・より親しみがもてる第九になるように、当日の公演の様様を地元のケーブルテレビで一定期間放送してみ

てはどうか（倉吉公演では実施されている）。

- ・ 県文連会長のあいさつの中に、特に西部地区の演奏が素晴らしいように書かれているが具体的に記入があれば東部地区、中部地区の参考になると思う。どの地区の演奏会も工夫があり見劣りなく素晴らしいと思うが。
- ・ 施設に関することだが、ステージのすぐ上の天井のライトが、一か所切れていた。非常に気になった。「素晴らしい公演に、水を差す」残念な光景だった。

第16回鳥取県総合芸術文化祭・とりアート2018

メイン事業オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」(とりアートオペラ公演実行委員会)

平成30年12月24日(月・祝) 倉吉未来中心

文化芸術事業評価シート(とりアート事業(総合芸術))

目的	自己評価			評価委員による指標
	取組目標	行動計画	達成度及び理由	達成度及び評価委員からのコメント
裾野の拡大	幅広い文化芸術分野と共同して事業を実施することで、より多くの方が参加しやすい事業とする。ゲネプロを公開し、一般の方がオペラに触れる機会を増やす。	バレエ団、合唱団との共演により裾野の拡大を目指す。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> オペラに参加した子どもたちに、生音楽の素晴らしさと感動を与えた。再び、このようなチャンスがあれば参加したいとの意気込みが示された。少年少女の参加により、通常オペラに触れられることのない方々がオペラを見に来られた。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> 子どもたちにとって生オーケストラで素晴らしい指揮者、演出者のもとオペラに参加、体感出来たことは、強い感動が残ったのではないかと。バレエ団にとっては、鳥取市の他の公演が一週間前にあったが疲れもみせず、素晴らしい舞踊をみせて、若い人たちの力が目立った。少年少女が参加することにより、通常観劇に触れることのない方がオペラを観に来られたことで、取組目標に近づけることができた。
		ゲネプロを公開することにより、一般の方に広くオペラに触れる機会を提供する。	<b>達成度：一部達成</b> <b>【成果】</b> 壮大なオペラ・ステージの制作現場を見て、多くの裏方によって支えられ創られる事を体感し、総合芸術の素晴らしさを実感していただけた。 <b>【課題】</b> ゲネプロ公開は行ったが、見に来られる方は決して多くなかった。	<b>達成度：一部達成</b> <b>【成果】</b> 出演者の質も申し分なく、特に父親役の歌声は素晴らしかった。オーケストラの質も高く管弦楽法も優れたものであった。字幕スーパーがあったおかげで、オペラ初心者でも内容が分かりやすくなっていった。複数の出演者が、ゲネプロの様子を自分のスマートフォンを客席に設置しておいて動画撮影し、見返して自分の改善箇所を確認するなど、意識の高さがうかがわれた。 <b>【課題】</b> 一般の方に広くオペラに触れる機会を提供という点では、参加者も少なかったようであり、目標達成とは言い難いように思われる。公開についてどのような告知を行ったのかはわからないが、本当に見に来てもらいたいのであれば、しっかりとした広報を行う必要がある。
頂点の伸張	オーディションや指導者の招聘によりアーティストの	公募やオーディションを行い、質の高い事業となるよう努める。	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> 県外アーティストにも公募をかけ、オペラ作品の質の向上、県内アーティストの意欲の向	<b>達成度：達成</b> <b>【成果】</b> 県内ソリストが大半であることは20年間の活動の源にあるアーティストの研鑽の結果で

	質の向上を図る。		上につながった。 全国公募で 28 人のソリストが受験したが、合格者は県内ソリストが大半であり、県内ソリストのレベルの高さが実証された。	ある。 2 人の県外のアーティストも高いレベルの合格者であった。 公募・オーディションにより優れたアーティストが確保できた。質の高い事業となった。
	県外から指導者を招聘し、県内アーティストの質の向上を図る	<b>達成度：達成</b> 【成果】 県外から演出家、指揮者を招き、指導を受けることで、県内アーティストの演奏技術が向上した。 今回起用した指揮者は、ドイツのオペラハウスで研鑽を積んだ大ベテランであり、これまでにないオペラの高みを実現して頂いた。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 演出家の中村敬一氏はオペラ協会にずっと関わっておられるという意味で、ずっと質の高いオペラ指導を行っている。その積み重ねが今回のオペラの成功に繋がっている。 今回の指揮者の大勝氏の指導によってオーケストラがステージ上と一体となっている演奏であった。 県外からの指導者によって、新たな視点からの指導や助言が行われることで、質の向上につながるものとする。	
人材育成	練習参加者を増やし、県内アーティストの後継者の育成を図る。	別メンバーでも公演が行えるようにし、幅広いアーティストの質の向上を図る。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 別メンバーでも同公演ができるような体制が組んでいるので、今後オペラ協会の演目としていろいろなスタイルでの公演ができる準備ができた。今後のアーティストの質の向上を期待できる。その成果はプレ事業としてサロンオペラでの公演を成功させ、学校関係への音楽宅配便事業にも生かされ、そのレベルは著しく向上した。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 別メンバーでも公演が可能とのことで、それぞれが相当量の練習を重ねてきたものとする。 プレ事業や音楽宅配便等の他事業へ展開することで、オペラの裾野を広げることもつながっていくものとする。
		出演者に合唱団・バレエ団の少年少女を迎えることで、質の高い音楽を身近に感じられるようにする。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 ソリストの演奏や演技を身近で目にすることで、子どもたちは表現の喜びや音楽のすばらしさを感じる事ができた。 その要因は、指導者の揺るぎない指導性と、音楽を追求する姿勢が素晴らしく、妥協を許さない音楽追求でレベルの高さが担保出来た。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 人材育成の面で今回のオペラは、子どもたちの参加が多かった。大人のアーティストに交ってとてもよい成果を上げたのではないかと。 少年少女達にとって、幼いころからレベルの高い演奏や演技に触れることで、今後の自身の取り組み方へのよい影響があらわれるものと考えられる。 合唱指導の小谷氏やバレエ指導の中川氏は高いレベルの指導で子どもたちを導いた。
総括			( 16 / 18 ) ≒ 88.9%	( 16 / 18 ) ≒ 88.9%

## 【自己評価統括】

### ○成果

- ・行動目標はほぼ達成できた。また、来ていただいた方々には総じて高評価をいただき、オペラの質の向上は十分に図ることができた。
- ・県内の方々に質の良い音楽に触れていただくよい機会を提供できた。
- ・このオペラの練習を通し、今後のアーティストの質の向上に関する礎も築けたことは大きなことである。
- ・他団体（バレエ団・合唱団）との共演により、通常オペラに触れることのない方々にもオペラのよさを実感してもらうことができた。

### ○課題

- ・とりアートオペラ公演で目指していることをもっと明確にし、その上で目指す姿を共有していく必要がある。
- ・活動を長期的かつ戦略的・計画的に行うことや、お互い協力して行っていくことがオペラ愛好者、音楽愛好者を増やすために重要である。
- ・公演に来ていない方々の声を吸い上げることが難しい。お客様の潜在ニーズを開拓するなど、集客のための手だてを根本的に検討していく必要がある。
- ・公演日時や公演場所、観客のマナーの徹底には今後検討していく必要がある。クリスマス寒波を心配して、東部から来られる方はぎりぎりの決断をされている。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・特になし。

## 【評価委員統括】

### ○成果

- ・行動目的は達成した。オペラの質の向上と県民への質の高い芸術の提供ができた。
- ・練習を通して、少年少女たちの質の向上が可能になり、後継者への道も開けている。
- ・今回のオペラ「ヘンゼルとグレーテル」はグリム童話ではあるが、本当に「大人に癒しを、子どもに芸術を」その表現ぴったりのものであった。子どもたちの出演できる時間もしっかりとっており、子どもの育成の大きな成果となった。ソロのアーティストも若い人が主役を演じ、全体的に若い人たちが、沢山ステージで力を発揮した。
- ・すでに力のあるアーティストたちが、素晴らしい演奏で今回のオペラも質の高いものにした。
- ・オーケストラの質の高さも、今回特に、ステージ上の演奏とすばらしい一体感であった。

### ○課題

- ・ゲネプロへ及び本公演への鑑賞者を増やすため、戦略的な広報が必要と考える。
- ・アンケート回収率は単純な比較はどうかとも思うが、昨年の1/3ほどである。事業者の自己評価において来場していない方々の声（ニーズ）把握云々とあるが、それはそうであるが、入場者アンケートの回収率向上も不可欠であると考え。回収されたアンケートの中にはアンケートの方法についての指摘もあり、今後に生かすべく検討を期待したい。
- ・アンケートからは今後のオペラの振興や普及に繋がるような意見もあるかもしれないので、丁寧に行っていく必要がある。
- ・主人公2人のオペラ中心にストーリーが進んだ舞台前半は、テレビやYoutubeなどの早い展開に慣れた世代には退屈なところもあり、バレエ団のダンスをもう少し早い段階でソロなどの形で入れ込むような工夫があると、子どもたちの出番も増えてさらに良かったように思われる。アンケートにも、もっとバレエを入れて、という要望があった。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・子どもたちのまっすぐな表現や発表は、感動的であった。特に、バレエは、異世界へと観客をいざないダンスに惹き込むことができた。
- ・クリスマスイブは大方が自宅で家族と過ごすものという認識を持っているせいか、公演当日は集客に今一つ感があつた。
- ・公演中に携帯を見ている人がいた。あたりが暗いのにそこだけ急に明るくなったりし、非常に違和感を覚えた。観客のマナーをどう向上させるのか今後の課題だと感じた。
- ・オペラは沢山の人たちが関わる大仕事である。色々な関係者がどの種類で動く仕事か個々が本当に理解していないと出来ないどころか、混乱することの方が多い。早くからオペラ協会に関わってこられた人から



- の残念な意見がアンケートにあったのでこれから継続に向けて、よく理解、協力をしていって頂きたい。
- ・鳥取市の出演者が多かったのでお客さんが遠くからくることでバスなどが出ると、行きたいという人がいたので検討してほしいという意見があったが、集客には影響が多少あるように思われる。
  - ・トークショーの時、前回のオペラの時もだったが、もう少し静かに聴いてもらうよう、場内の雰囲気作りを考えて欲しい。
  - ・前回より、入場者数が少なかったのが残念である。子どもの入場者があまり多く見られなかったのが残念であった。
  - ・自己評価総括において、定量目標の達成或いは未達成についての言及が全く記載されていないのは如何なものか。
  - ・定量目標として掲げた①アンケート回収率、②観客満足度、③入場者数のうち目標を達成したのは②のみで、しかも3項目とも昨年の「マクベス」のそれを下回っている。
  - ・入場者数について、実施者アンケートの中でチケットの取り扱いについてわかりにくいとの指摘があるが、これらについての事業者の認識について言及があってもよいのではないかと感じた。

第40回鳥取県書道連合会展（鳥取県書道連合会）

平成31年3月21日（木）～3月24日（日） 鳥取県立博物館

文化芸術事業評価シート（県・県文連事業（展示系））

目的	自己評価			評価委員による指標
	取組目標	行動計画	達成度及び理由	達成度及び評価委員からのコメント
伝承と再発見	童謡唱歌のふるさともある鳥取県の特性を生かして、読みやすく親しみやすい漢字仮名交じり書「童謡唱歌を書く」を特別展示する。	漢字仮名交じり書は伝統も浅く、学ぶ上での古典となるものも少ないため、理事以上の役員が担当する。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 毎年鑑賞者の評価が高い展示で、今回も親しんでいただいた。  【課題】 役員担当とはいえ、新しい表現工夫が更に必要である。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 質を担保するため役員以上の会員が担当した。「童謡唱歌を書く」という取組目標が、書に馴染みがない者にも親しみやすい特別展示だった。 継続的な取組であり、ここから新たな伝統を創られることを期待している。
		伝統が確立されていないジャンルなので、更なる質的向上を図るため、継続的に取り組んでいく。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 少しずつ表現上の工夫が見える作品が増えている。  【課題】 伝統的な書とは異なる表現工夫を更に必要とする。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 鑑賞者からの評価が高い「童謡唱歌を書く」に引き続き取り組んだ。表現を工夫する姿勢が、作品の質的向上につながった。
創造・拡大	第40回展となることを記念して、例年以上の取組み内容とする。	中国吉林省、台中市から作品を送ってもらい、国際交流展を特別展示する。さらに吉林省から訪日交流団を招聘する。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 国際交流展はアンケートからも好評を博したと言える。  【課題】 当初4人の予定だった訪日団が、事情により2人となった	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 国際交流展の展示や中国からの交流団の訪日を実現した。  【課題】 訪日団員が2人に減ったのは残念である。
		現代の製硯師、青柳貴史作の硯20面余をお借りして、特別展示を併催する。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 貴重な名硯を多数展示でき、好評であった。このために来館した人もあったようである。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 テレビなどでも紹介される話題の製硯師の硯の展示は素晴らしいアイデアで良かった。製硯師の思いを知る機会を得て、とても貴重であった。
		鳥取県書連と吉林省訪日団の代表による書法交流、席上揮毫会を行い、来場者に関心を深めてもらう。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 県内三地区連盟から一人ずつ出て揮毫することができた。訪日代表者も揮毫された。  【課題】 会場の照明が暗くて揮毫者は少し苦労をした。	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 県内の書道活動者と訪日交流団との揮毫は、来場者の書道への関心や興味を深める取り組みである。
人材育成	出品者に選ばれて出品できたこと	出品者に選ばれて出品できたこと意識をもってもら	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 アンケートの満足度を見ると、	<b>達成度：概ね達成</b> 【成果】 出品作はどれも質が高かつ

	の意識をもってもらおうとともに、賞を目指して書道技術の向上に努めてもらう。	うとともに、賞を目指して書道技術の向上に努めてもらう。	一定の質的レベルは維持されたと思われる。  【課題】 会員の減少が続いており、無鑑査未達者のレベル維持に苦労がある。	た。選抜を通過するという意気込みを感じた。アンケートの満足度も良かった。  【課題】 出品レベルに一步及ばない会員のレベル向上による「展覧会の質の確保」にも取り組んでほしい。
		知事賞等を設け、出品者の意識向上を目指す。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 知事賞等三賞の受賞者は様々な書展での受賞経験があり、見応えある作品であった。	<b>達成度：達成</b> 【成果】 知事賞等の受賞を目指し、出品者は努力を重ねるなどの技術や意識の向上につながったと考えられる。知事賞等三賞の書は、力強く存在感のある作品が選出された。
総括			(16/21) ≙ 76.2%	(19/21) ≙ 90.4%

## 【自己評価統括】

### ○成果

- ・第40回を記念した様々な取組は概ね成功した。
- ・中国吉林省からの出品と来日、書法交流、歓迎会祝賀会を実現した。
- ・中国台中市書法学会・台中市中国書学研究発展学会からの出品を受けた。
- ・青柳貴史氏作の硯20余面を借りて特別展示できた。

### ○課題

- ・期待していた来場者数確保とアンケート回収率の向上が、全く目標に届かなかった。
- ・アンケート結果を見ても、高齢者の比率が高く、この人たちは駐車場が近くに無ければ来館が難しいようである。入らずに帰られた人も一定数あったと聞いた。
- ・アンケートの回収率については、特に第2展示室の照明が暗く、書くのに苦労されたようで、やめた人も多かったと聞いた。場所と照明状況については事前にチェックしておく必要があった。

### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・会員の高齢化が進んでおり、自ら作品展示のためにパネルを立てたり額を吊るしたりすることが年々難しくなっている。若い会員もいるが、ウィークデイに休みを取れる状況にはない。時間に余裕がある会員は体力に乏しく、体力のある会員は時間に余裕が無い。社会の変化を感じている。

## 【評価委員統括】

### ○成果

- ・中国吉林省や台中市からの作品の出品や訪日交流団の実現、話題の若き製硯師である青柳貴史氏の硯の特別展示など、第40回目の節目を記念する取組は素晴らしく、ともすればマンネリがちになる「毎年恒例の展覧会」に対して、工夫をすれば活動者および鑑賞者の興味や関心を高めることが出来る好事例を示した。
- ・「童謡唱歌を書く」は毎年好評で、継続して取り組んでいる成果がでている。
- ・610人の入場者の多くが満足され、結果的に良かったと思われる。
- ・県書連と吉林省の代表が揮毫されたことは、書連の質の向上に繋がったと思う。
- ・青柳貴史氏作の硯特別展示と、映像の放送は目新しく、書をまた違った角度から鑑賞する視点を得ることが出来て良かった。硯の製作工程が理解できた。

### ○課題

- ・アンケート回収率と入場者数が目標を大きく下回った。特にアンケートは、記入場が暗くて書きにくい

など、記入者目線の配置ではない。回収率向上の努力が必要。また、せっかくの記念事業の取組も入場者が少なくではもったいない。次回はアンケート回収率向上や広報面での目標を掲げて向上に取り組んでほしい。

- ・「人材育成」の行動計画が「出品者を150名に絞ることによって、展覧会の質の確保に努める」となっているが、出品者を絞ることで質を確保するだけでなく、出品レベルに一步届かない活動者や若い活動者のレベル向上を図って質を確保できるような「人材育成」の行動計画を設けて取り組んでほしい。今回の記念事業のアイデアを出して実現された力を持っている書道連合会ならばきっと実現できると思う。
- ・予定来場者の数が未達だった。その原因の検証が必要である。
- ・今回の鳥取県書道連合会展の課題にもあるように、照明という設備が作品、揮毫する人に及ぼすことに配慮されることが課題だと思う。
- ・アンケートの置き場所が非常に分かりにくかった。スタッフが付いていないため、特にアンケートを書くように勧められたわけでもなく、回収率の低下につながったと思う。
- ・今まで博物館のそばにあった駐車場が工事中で使えなくなっていて、不便を感じた。

#### ○その他事業に関する意見、感想など

- ・次世代活動者の育成は簡単ではないが、長期的視野で継続して人材育成に取り組まれることを望む。
- ・「第40回」を記念する展示ということで、各コーナーに花を生けるなどの工夫があると、さらに華やかだ雰囲気になって良かったのではないかな。全体的に照明が暗く、寂しい感じがした。
- ・高校生による「書道パフォーマンス」を取り入れるなどはいかがであろうか。
- ・愛好者の世代を考えると、展示の説明文はもう少し大きな字でも良かった。
- ・日本の書と外国の書は違うことに気づかされた。筆使いが違うのだろう。
- ・硯の展示は興味が持てた。書道に関して、その周辺の道具の特別展示は、来場者の幅を広げるヒントになるのではと思った。

## IV 専門家評価

### 第16回鳥取県総合芸術文化際・とりアート2018メイン事業 とりアートオペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」 平成30年12月24日(月) 倉吉未来中心

島根大学教育学部芸術表現教育講座 佐々木 直樹

#### 1. 基本方針に基づく評価

##### (1) 企画意図

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」をとりあげる理由として、グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」を題材としながらも、ヘンゼルの復讐を割愛し、勧善懲悪の物語として改変<sup>1</sup>された内容であるため、幅広い世代に受け入れられることと、ドイツ・オペラを代表する作品である<sup>2</sup>ことが挙げられている。オペラは、日本人にとって殆ど観る機会がなく、地方では上演自体が少ないものであるが、総合芸術であるオペラを上演し、鑑賞の機会を提供することは、文化芸術の発展において大いに意義があると考えられる。

大まかなストーリー展開が知られる「ヘンゼルとグレーテル」の物語を題材としたオペラを選定した点において、オペラに対する抵抗感を減らし、幅広く親しめる芸術として届けたいとの思いが感じられる。オペラは本来、既知の物語を、様々な趣向を凝らした舞台演出と素晴らしい演奏によって観客に届けるものであるため、親しみやすい題材によるオペラを選定したことは十分理解できる。幅広く親しめる作品である一方、上演機会の多いオペラにあるような有名なアリアや音楽(序曲)がないことで、本公演を通してオペラの魅力を伝えるためには、作品の魅力を分かりやすく解説する努力が必要となる。今回の公演においては、チラシのデザインや解説、サロン公演や公開ゲネプロ、プレトークなど、多くの工夫と努力が認められるが、その効果は十分であっただろうか。

##### (2) 実施手法

出演者はオーディションによって選ばれたが、合唱団、バレエ団など、ほとんどの出演者は、地元のメンバーで構成されているため、個々の演奏技術の差や演技上のバラつきが出てしまった点については、今後の課題となる。演出家、指揮者は県外から招かれており、オペラの質の向上を目指す姿勢がうかがえる。またオーケストラは、小編成ながら地元を中心にプロの演奏家で構成された「アザレア室内合奏団」が演奏することで、演奏面での安定感が十分感じられた。

オペラは日本語上演であったが、観客への配慮として字幕付となっていることについては、評価が分かれるところである。一部舞台上の役者の声が聴き取りづらく、字幕が必要な状況であったことは理解できるが、字幕が気になり舞台に集中しづらいことから、字幕がなくても楽しめる工夫があってもよかったのではなかろうか。

##### (3) 来場者の属性

倉吉市内の二つの合唱団、鳥取シティバレエの出演により、その関係者の来場があったことで、オペラに興味を持つ人だけでなく、広く一般の方々の集客ができたと言える。しかし、オペラとしての知名度が決して高くない作品による公演のため、オペラ作品への興味による来場者や、遠方からの来場者があまり見込めず、さらには公演日が連休最終日かつ「クリスマス・イブ」ということも集客にマイナスに働いた可能性がある。オペラファンのみならず、広く一般の方々の集客を考えるのであれば、遠方からでも観に来たくなる作品・出演者・オーケストラの選定、公演日の設定について、慎重に決定しなければならず、事業実施における重要検討事項として捉えなければならない。

##### (4) 観客の反応(アンケート結果)

はじめに、来場者632人に対しアンケートが61枚という結果は、回収率として決して良い結果ではなく目標を達成できていないことから、今後に向けて回収率を上げる努力や工夫が必要であろう。アンケート結果によると、「とても満足」、「満足」の回答が多く、目標の満足度80%を超える約89%の結果となり、本公演はおおむね好評であったと評価できる。

<sup>1</sup> オペラ「ヘンゼルとグレーテル」公演企画案より

<sup>2</sup> とりアートメイン事業企画案より

アンケートによる満足の要因としては、舞台の演奏・演技・演出への回答が多く、舞台の評価が高かったと判断できる。バレエに対する好評が多く、バレエのオペラにおける演出効果については、十分あったと評価できる。演奏についても好評が多く、一定のレベルに達していたと判断できる。

改善に対する意見では、観客のマナーに関するもの、アンケート内容および回収方法について、場内アナウンスについて、公演日について、などがある。

演奏会において、上演中のスマートフォンの使用禁止をはじめ、上演中のマナーについては、周知を徹底しなければならず、一般のオペラ公演のように、パンフレット以外を持たせないようにするクロークを設置するか、パンフレット内への注意事項の記載や場内アナウンスによる注意が重要となる。今回の公演では、オーケストラの練習音が大きく、アナウンスが聞き取りづらかったことから、注意事項をまとめた資料をパンフレットへ挟みこむなど、十分な配慮が必要であったと考える。

アンケートや公演日については、前述のとおり、今後の課題として検討していただきたい。今回のオペラが童話によるものであり「クリスマス・イブ」の開催であることから、アンケート協力者へのお菓子の配布など、回収率向上に向けた努力が必要である。

## 2. 公演に対する総評

### (1) 全体の評価

今回の「ヘンゼルとグレーテル」は、オペラとしての完成度が高い公演であった。歌手やオーケストラは各々の役割を全うし、バレエや合唱は舞台を盛り上げていた。一階客席はほぼ満席であったが、上演が始まると真剣に鑑賞する様子が見られ、今回の公演に対する期待が感じられた。特に三幕に入ってから、舞台に観客が引き込まれる空気感があり、オペラの魅力が伝わった瞬間であった。

様々な客層を迎えての公演のため、歌唱後や終演時の拍手・掛け声などが少なく、オペラ鑑賞における一般的な常識の理解についても、徐々に広められれば、より盛り上がるのではないかとと思われる。また、ホール内（舞台上）だけでなく、ロビーなども一体となって公演を盛り上げることで、来場とともにオペラの世界へと気持ちが入り込めるため、始まる前の期待感、終わってからの余韻が得られ、より満足度の高い公演となるのではなかろうか。

公演日、アンケート調査方法（内容・回収方法）、場内アナウンス、パンフレット・プレコンサート・公開ゲネプロ・プレトークの効果については、今後に向けた検討が必要である。

字幕については賛否両論あると思われるが、芸術的な観点から、日本語上演の場合、なくても良いのではと考える。むしろ、パンフレットやプレトークにより、ストーリー展開や聴きどころを解説し、舞台から直接感じとれるように工夫した方が良いと考える。

### (2) 演奏の評価

歌手、オーケストラとも、レベルとして一定の基準をクリアしており、安定感のある舞台進行であったが、作品の魅力を十分に出すという点において、二つ課題があげられる。

第一に、最初のヘンゼルとグレーテル登場の場面、オペラの世界に聴衆を引き込む重要な場面であるが、キャラクターのコミカルな動作と軽快な音楽に合わせながら、全てをしっかりと歌い上げることに必至なため、歌手の一生懸命さが強調されてしまい、物語の世界に自然に入り込める雰囲気に至らなかった点である。緊張と力みからか、大切なメロディの流れがうまく表現できなかつたり、重唱での要所を決められずに進んでしまつたりと、不十分な展開であった。原語のリズムに合わせた音楽のため、日本語上演での歌唱の難しさがあったのかもしれない。日本語にもかかわらず、部分的に歌詞が聞き取りづらくなったのも、このことに関係している可能性がある。音楽稽古から舞台稽古に展開していく中で、つねに演奏と演出のバランスに気をつけることの重要性を感じる。

第二に、第二幕の序奏である。演奏中に場面転換するわけだが、序奏の演奏が中途半端な演奏となり、客席が転換待ちをしている雰囲気になってしまった点である。身体を動かすなど、舞台への集中が途切れ、場面転換を待っているだけの雰囲気となったのだが、この序曲は、変化に富んだ十分楽しめる聴き応えのある曲のため、むしろオーケストラの聴かせどころであり、次への期待感へと繋がる重要な部分である。しかしながら、迫力と変化に乏しい演奏となっていた。小編成のため、ダイナミクスに限界があるかと思われるが、単純に強弱だけではなく、強調とレガートの使い分けが不十分で、全体に重く緩い展開となっていたことが原因と考えられる。オーケストラの練習時間、指揮者との合わせの時間など、限られた時間での仕上げと考えると仕方がない面もあるかと思われるが、演奏の質の向上のためにも、オペラの魅力を伝えるためにも、演奏効果について細部まで注意を払う必要があるかと考える。

第三幕が始まり、終演に向け徐々に客席が引き込まれる雰囲気となったのだが、恐らく魔女を演じた吉田貞美氏の歌唱と演技の安定感が重要な鍵となったと推測される。吉田氏は、歌唱と演技のバランスが良く、歌唱がつねに安定していたため、物語と音楽の展開に集中しやすかった。他の出演者も魔女を中心に徐々に一つにまとまり、全体に舞台が盛り上がっていったと感じる。

このことから、オーディションによるキャスト選考は良かったと評価できる。しかし一方で、選考の場合、キャスト間のバランスについての考慮が必要となる。キャラクターとして、歌手間のバランスがとれていなければならないのだが、今回の場合、アンケートにもあるように、父親と母親のバランスが悪く、同年代に見えない点が上げられる。オーディション内の限られたメンバーで決める場合、どうしても適任者が見つからないこともあるため、演奏家派遣事務所や音楽関係者を通してのキャスト紹介など、様々なルートによるキャスト選考を検討いただきたい。

### 3. 課題と今後の展開に向けて

とりアートの事業として、オペラ公演を根づかせるためにも、公演全体で盛り上げる努力と演奏の質の向上が今後の課題となる。

毎年とはいかずとも、数年に一回あるオペラを楽しみに待つ習慣が根づき、一大行事として親しまれるためにも、オペラを一つのエンターテインメントと感じられる工夫や努力が必要となる。テーマパークの入口のように、これから鑑賞するオペラの世界をロビーに再現したり、オペラ劇場のように、ロビー内での記念品・飲食物の販売や、記念撮影コーナーを設置したりするなど、様々な形で公演を盛り上げる工夫が必要である。特に今回の作品は、「お菓子の家」を軸とする童話を題材としていることから、ロビーでのお菓子配布や「お菓子の家」の再現、撮影コーナーの設置など、何らかの工夫が考えられたのではなかろうか。

演奏の質の向上としては、出演者個々の力量に問題があったわけではなく、全体としてのまとめ、細部の徹底が不十分であったことから、作品を仕上げていく上での全体像や様々な面でのバランスについて、注意深く取り組むことが肝要であると考ええる。

最後に、パンフレット内の解説やプレトークは、音楽の基礎知識をもたない来場者への配慮が足りないことから、改善が必要である。パンフレットにある楽譜で示されたメロディがどのようなものであるか、プレトーク内で一部の楽器やキーボード等を用いて演奏するとか、物語の見どころや聴きどころをプレトーク内で再確認するなど、事前の予備知識を与える機会として十分に活用してほしいと考える。

以上、「とりアートメイン事業」としてのオペラ公演が今後さらに発展することを期待し、評価報告とする。

## 鳥取県文化芸術事業評価委員会

### ■委員名簿

氏 名	所 属 等	備 考
尾上 明	新日本海新聞社記者	会長
南家 久光	行政書士（南家行政書士事務所）	副会長
石谷 依利子	砂丘 YOGA 代表	
小椋 博志	倉吉室内合奏団（コントラバス） 元河北中学校長	
門脇 明子	音楽家	
川口 朋子	DANCEforREAL 代表	
近藤 映子	鳥取市文化団体協議会理事 鳥取女声合唱団団長	
谷口 博教	元総務省島根行政評価事務所長	
中村 絹子	元アザレアのまち音楽祭事務局長 倉吉文化団体協議会常任理事	
前田 夏樹	鳥取短期大学生活学科住居・デザイン専攻准教授	
持田 巖	農業	
佐伯 哲哉	（公財）鳥取県観光事業団（とっとり花回廊）	



## ■事業別評価報告書執筆担当一覧

番号	主体	団体名	事業名	期日	実地 検証 委員 数	執筆委員 (●:主担当)
1	鳥取県	鳥取県 地域振興部文化政策課	第9回とっとり伝統芸能まつり	5月27日(日)	6	●南家委員 谷口委員
2	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県ミュージカル連盟、鹿 野町民音楽祭実行委員会	鳥取県ミュージカル連盟第4回合同公 演・第32回鹿野ふるさとミュージカル 鳥取公演	6月10日(日)	2	●小椋委員 石谷委員
3	鳥取県	鳥取県 地域振興部文化政策課	第62回鳥取県美術展覧会	9月15日(土) ～11月26日(月)	10	●谷口委員 南家委員
4	鳥取県総合 芸術文化祭 実行委員会	西部地区企画運営委員会	第16回鳥取県総合芸術文化祭・とり アート2018西部地区事業	9月22日(土) ～9月23日(日)	5	●持田委員 前田委員
5		中部地区企画運営委員会	第16回鳥取県総合芸術文化祭・とり アート2018中部地区事業	11月10日(土) ～11月11日(日) 9月24日(月・祝)*プレイベント	5	●尾上委員 佐伯委員
6		東部地区企画運営委員会	第16回鳥取県総合芸術文化祭・とり アート2018東部地区事業	12月8日(土) ～12月9日(日) 9月8日(土)*プレイベント	2	●前田委員 石谷委員
7	鳥取県文化 団体連合会	県民による第九米子公演実行 委員会、第九米子公演推進委 員会	第32回県民による第九米子公演	11月25日(日)	3	●門脇委員 小椋委員
8	鳥取県総合 芸術文化祭 実行委員会	とりアートオペラ公演実行委員 会	第16回鳥取県総合芸術文化祭・とり アート2018メイン事業	12月24日(月・祝)	8	●近藤委員 中村委員
9	鳥取県文化 団体連合会	鳥取県書道連合会	第40回鳥取県書道連合会展	3月21日(木) ～3月24日(日)	5	●川口委員 尾上委員長

## ■評価委員会の開催状況

回数	開催日	報告・協議内容
第1回	平成30年 5月15日(金)	<p>(1) 評価委員の退就任について</p> <p>(2) 協議事項            ア 評価委員会の会長・副会長の選任について            イ 平成29年度評価報告書について            ウ 平成30年度評価方針・評価方法について            エ 平成30年度評価対象事業について            オ 評価事業の実地検証・執筆担当について</p>
第2回	平成30年 8月23日(木)	<p>(1) 協議事項            ア 評価案「第9回とっとり伝統芸能まつり」について            イ 評価案「鳥取県ミュージカル連盟第4回合同公演・第32回鹿野ふるさとミュージカル鳥取公演」について            ウ 評価対象事業の実地検証・執筆担当について(未確定分)</p> <p>(2) 事業実施者への評価報告及び意見交換            ア 「第9回とっとり伝統芸能まつり」について            イ 「鳥取県ミュージカル連盟第4回合同公演・第32回鹿野ふるさとミュージカル鳥取公演」について</p>
第3回	平成31年 3月18日(月)	<p>(1) 協議事項            ア 評価案「第16回とリアートメイン事業」について            イ 評価案「第16回とリアート東部地区事業」について            ウ 評価案「第16回とリアート中部地区事業」について            エ 評価案「第16回とリアート西部地区事業」について            オ 評価案「第32回県民による第九米子公演」について            カ 評価案「第62回鳥取県美術展覧会」について            キ 平成31年度 評価対象事業の実地検証・執筆担当について</p> <p>(2) 事業実施者への評価報告及び意見交換            ア 「第16回とリアートメイン事業」について            イ 「第16回とリアート東部地区事業」について            ウ 「第16回とリアート中部地区事業」について            エ 「第16回とリアート西部地区事業」について            オ 「第32回県民による第九米子公演」について            カ 「第62回鳥取県美術展覧会」について</p>

# 鳥取県文化芸術事業評価委員会設置要綱

## (目的)

第1条 県が実施又は助成する文化芸術事業のうち、次条に掲げる事業を年度ごとに点検することにより、当該事業における良質な作品創造や県民の文化芸術事業への鑑賞、参加の機会の充実及び効率的な事業の運営方法を確立することを目的に鳥取県文化芸術事業評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

## (評価対象事業)

第2条 評価対象事業は、委員会と県が協議のうえ、次に掲げる事業のうちから選定する。

- (1) 鳥取県総合芸術文化祭主催事業
- (2) 鳥取県文化団体連合会加盟団体助成事業

## (委員会の任務)

第3条 委員会は、鳥取県附属機関条例（平成25年鳥取県附属機関条例第53号）別表第1で定める事項を調査審議するものとし、委員会の任務の具体的内容は次の各号に掲げる事項とする。

- (1) 評価に係る実施方針の決定
- (2) 評価項目の作成及び調整
- (3) 評価報告書の作成、公表及び評価報告会の開催
- (4) 評価対象事業における改善が必要な事項の指摘
- (5) 被評価者が作成する改善計画の承認

## (委員の任務)

第4条 鳥取県文化芸術事業評価委員会の委員（以下「委員」という。）は、作品の鑑賞・実地検証及びアンケート調査資料等に基づく評価を行う。なお、評価対象事業の企画・立案に関わる者は、当該事業の評価を行うことができない。

2 委員会は、複数年にわたり改善が認められない評価対象事業について、県に対し補助金支出の妥当性に係る説明を求めることができる。

## (組織)

第5条 委員会は、県民（県内在勤者を含む。）で、調査審議する事項に関し知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

2 委員会は、委員15名以内をもって組織する。

## (会長)

第6条 委員会に会長を置く。

- 2 会長は委員の中から互選する。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 会長に事故あるときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

## (任期)

第7条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることがある。

## (会議)

第8条 委員会の会議は、会長（会長が定まる前にあつては委員会の庶務を行う所属の長）が招集し、会長が議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。
- 4 会議には、会長が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求めることができる。

(事務局)

第9条 会議の事務を処理するため、鳥取県地域振興部文化政策課に事務局を置く。

(要綱の改正)

第10条 この要綱の改正は、会議の決議を受けなければならない。

(補則)

第11条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が委員会に諮り、別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成26年1月15日から施行する。
- 2 平成25年度中に任命する委員の任期については、第5条第2項の規定にかかわらず、平成26年3月31日までとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成28年2月5日から施行する。



# 平成30年度鳥取県文化芸術事業評価報告書

平成31年3月

〒680-8570

鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県文化芸術事業評価委員会（事務局：鳥取県地域振興部文化政策課内）

電話：0857-26-7839

ファクシミリ：0857-26-8108